財団法人 日本ハンドボール協会編　平成22年 4月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻508号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集
第14回 男子アジア選手権
第18回 JOCジュニアオリンピックカップ2009
平成22年度日本協会事業計画

3·4
MAR.APR.2010·No.508



[表紙写真：第14回男子アジア選手権・末松選手：写真提供・久保弘毅氏]

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

総力を結集して…
「世界を奪い返す」



(財) 日本ハンドボール協会会長　**渡邊 佳英**

昨年度、5月に開催しました第2回日韓代表国際交流戦では、女子代表チームが韓国に勝利し、12月に中国で開催されました第19回女子世界選手権に挑んだものの16位に終わり、満足する結果とはなりませんでした。男子においては、アジア王者奪還を目指し、2月に開催されました第14回男子アジア選手権に挑みましたが、世界選手権の出場権は獲得したものの結果は3位と、こちらも満足する結果とはなりませんでした。そこで今年度、日本ハンドボール協会は、強化活動に全てのベクトルを合わせ、最大の目標であるオリンピック常時出場、世界選手権常時出場、そしてメダル獲得の実力をつけるべく総力を結集し、まずは、来年1月にスウェーデンにて開催されます第22回男子世界選手権上位入賞を目指し取り組んでいきます。さらにハンドボール競技の注目度アップ、競技人口アップ等に向け以下の内容について総力を挙げて活動していきます。

強化については、代表チームに特化し、「世界を奪い返す」、「アジアNo.1に返り咲く」ために全力で取り組みます。また、NTS（ナショナルトレーニングシステム）をより活性化させ、「JHAジュニアアカデミー」の充実によるジュニアからの強化の加速と指導方針の一本化を徹底します。さらに指導者スタッフの育成にも取り組みます。審判についても継続的な育成、指導能力アップはもちろん、「ヤングレフェリーの育成」を最重点に取り組みます。

指導普及は、「普及活動事業」と「指導者育成事業」を2本柱と捉えて取り組みます。また、「小学生・中学生大会の拡大」、「NTSとの連携・周知徹底」、「マスターズ大会の組織充実」、「車椅子大会の充実」等に取り組み、競技人口アップにつなげるとともに「ビーチハンドボールの組織化、大会充実」に改めて取り組み、新しい展開に備えます。

マーケティング・広報は共に連携し、より効果的な広報とバリューアップ活動によるハンドボールの注目度アップ、バリューアップに取り組み、スポンサー獲得を目指します。

競技は、「大会運営マニュアル」を基本に各大会に積極的指導を行い、各担当部門および各都道府県協会とも連携したくさんの皆様に満足頂ける大会運営に取り組みます。

日本リーグの充実は、強化に直結します。日本のトップゲームをたくさんのファンに披露するために「プロの興業集団」を目指し、昨今の社会情勢の変化に対応するため引続き「新ディビジョンの拡大・育成」に取り組みます。

国際については、国際ハンドボール連盟およびアジアハンドボール連盟の新体制に対応し、「アジア地域の発展」をベースに行動を展開します。引続き「アジアの正常化」に向け東アジアハンドボール連盟との結束を更に強固にし、IHF、AHFに従来からの提案や新しい提案を投げかけ、オリンピック出場に向けて道を開く活動を続けます。

総務は、事業を滞りなく実行するために、役員の育成・充実と事務の整備に取り組み、財務については、政治、経済、社会的価値観等の前代未聞の激変を踏まえ、収入源を想定した全く違う観点での予算の執行を考え実行します。また、環境問題についてハンドボールとして具体的に実行・活動し、積極的に取り組みます。

総合企画については、事業計画の徹底と中期スケジュールを見据えた事業計画を検討し、ジャパンカップ2010を企画開催します。また、組織活性化プロジェクトとして、社会人連盟を設立し、今後のハンドボール協会の基盤の充実を計ります。

がんばれ20万人会は、本来の目的を踏まえ、諸策を見直し20万人を目指します。

以上、今年度も皆様の幅広いご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

第14回
男子アジア選手権
(2011年男子世界選手権予選)

日本3位、第22回世界選手権出場権獲得!







〈最終順位〉

優勝	韓　国
2位	バーレーン
3位	**日　本**
4位	サウジアラビア
5位	カタール
6位	シリア
7位	イラン
8位	レバノン
9位	中　国
10位	イラク
11位	UAE
12位	ヨルダン

「第14回男子アジア選手権」写真提供：久保弘毅氏

総　評

日本団長　西窪 勝広

レバノン・ベイルートにて12カ国が参加し大会が開催され、日本は3位で終了し来年の世界選手権出場権を獲得できました。

1．テクニカルミーティング（酒巻ヘッドコーチ、中山コーチ、近藤総務）

※西窪、オブザーバー参加

① AHF Tehnical Committee

※ Theyab(KUW)　※ Abu Al_Lailf (KUW)　※ Ra ee(SYR)

※ Anand(IND)　※ Al_Enanzi(KUW)　※ Samha(SYR)

※ Talab(BRN)　※ Sukumolnan(THA)　Alzahrany(KAS)

※ Goto(JPN)　※ Tawakoli(IRI) AHF 審判長

② IHF Technical Committee　※ Ramon Galego(ESP)

③ AHF Referees

※ IRI ※ JPN ※ CHN ※ KOR ※ QAT ※ BRN ※ UAE ※ LIB

④ IHF Referee　※ SLO

2．IHF Galego

①ハンドボールが大変悪いイメージとIOCから指摘を受けている。このままではハンドボール自体がオリンピックから外される危機感を全員が持って欲しい。IHF管理下で公平且つフェアな運営を実施する。

①—1　過激な演技は強く罰する

※チャージを取る演技　※7mを取る演技

①—2　首から上のアタックに対する判定を厳しく

※退場か失格

3．AHF Theyab

①コート上で過激な演技は必要ない。演技は劇場かその他の場所でと強い口調で発言があった。

4．運営

IHFの元、レフェリーも世界選手権にノミネートする選考会に位置付けられ、Galegoの下でSLOのレフェリーが中心となり、公平な基準で運営され、各国の選手も素晴らしいプレーに集中できた。特に1時間10分で試合が終了するように立会人にも強く指導されていた。過激な演技、時間稼ぎにはイエローカードが出された。

本当に時間内で試合が終了していく状況を見ているとスピード感あふれるハンドボールが再確認できた。

このままアジアが正常化に進むことを願ってならない。

[総評]

大会運営は、レバノン協会が不慣れではあったが順調に実施された。常にレバノン協会の会長が陣頭指揮を執り、観客

参加名簿

役職	名前	所属
団長	西窪　勝広	（財）日本ハンドボール協会
監督	酒巻　清治	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	中山　剛	（財）日本ハンドボール協会
ドクター	沖本　信和	沖本クリニック
トレーナー	赤尾　和彦	トレーナーズ・フォー・アスリート
情報・分析	舎利弗　学	学校法人　福島高等学校
総務	近藤　恒俊	（財）日本ハンドボール協会

	背番号	名前	所属先
CP	2	豊田　賢治	大崎電気
CP	4	前田　誠一	大崎電気
CP	5	末松　誠	大同特殊鋼
CP	6	富田　恭介	日本ハンドボール協会
CP	7	宮﨑　大輔	アルコベンダス
CP	8	武田　享	大同特殊鋼
CP	9	永島　英明	大崎電気
CP	10	岸川　英誉	大同特殊鋼
CP	11	信太　弘樹	日本体育大学
GK	12	高木　尚	大同特殊鋼
CP	15	森　淳	大崎電気
GK	16	松村　昌幸	湧永製薬
CP	19	猪妻　正活	大崎電気
CP	20	門山　哲也	トヨタ車体
GK	22	坪根　敏宏	トヨタ車体
CP	23	東長濱　秀作	湧永製薬
CP	24	野村　喜亮	大同特殊鋼



が騒ぎ出すと自ら観覧席にいき、軍警備関係者と共に鎮静に向けた行動を執り、大きな問題もなく終了した。

在レバノン日本国大使館からも、チームに激励の言葉を頂き、日々、ご家族を含め応援に駆けつけて戴きました。レバノン日本国大使館からは､細かく治安等の連絡を取って戴き、安心して試合に集中できたことに感謝しています。

強化本部長に就任し「アジアNo.１に返り咲く」為に何をすべきか投掛け、各カテゴリーで韓国に勝つか、それに等しい試合をしなければならないと、問題提起をしてきた。今大会に関しては、２週間に亘る大会ではあったが、強化の意図をスタッフが理解し取り組んでくれた。予選リーグ１位で通過し、本戦ラウンドではサウジアラビアに破れ、Ａ組２位で決勝に進みベスト４に残ることができた。しかし世界選手権に出場するためには３位以内に入ることが条件であった。

準決勝の宿敵韓国との戦いでは、素晴らしいスタートを切ることができたが、基本的なミスから韓国に得点され課題を残す戦いであった。

３位決定戦は再度サウジアラビアとの戦いとなり、中１日置いて、韓国戦の反省そしてサウジアラビア戦の対策を細かく分析し試合に臨んだ。開始から終始日本リードの展開で進み、前半２点リードで終了。しかし、後半開始から単純なミスが出始めリードされる局面があったが、大型の選手に果敢にアタックするDFで厳しい局面を乗り切り、延長戦でも怯むことなく、闘争心溢れるプレーで延長を含む70分の死闘を演じ、世界選手権の切符を３大会ぶりに獲得できた。

２年前の「中東の笛」の再試合から、酒巻ヘッドコーチが戦う体力強化を重点項目においた成果が現れた試合内容であった。しかし、アジアNo.１に成る為には韓国戦の敗戦を深く反省し、今以上の闘争心溢れる戦いの出来る体格・体力強化を日本代表だけではなく、男女共に底辺から再強化する必要性を強化本部長として痛感している。

この大会でアカデミー生の野村、信太の２名が参戦し、物怖じしない活躍をしてくれた。アカデミー事業が少しではあるが成果が表れ、今以上の底辺育成に重点を置いた強化に努めていく必要性も再確認できた。

酒巻ヘッドコーチに関しては選手個々の能力を遺憾なく引き出し、支えるスタッフとのコンビネーションも評価に値する。同様に分析、ドクター、トレーナーと役割が明確であり選手が戦える環境を整えたことも今回の成績にも結びついたと感じる。

まだまだ課題は山積しているが､日本の忘れかけている｢機動力｣の原点を今大会で私自身再確認できた大会でもあった。

報告にあたり、今大会は本当に色々な方々のお力で乗り切ることが出来ました。選手所属チームそしてスタッフの所属会社に一ヶ月間、日本代表活動にご協力頂いたことが、今回の成績に結び付いたと感謝致しております。

オリンピックに出場するには、色々な山を越えなければなりません。各チームのご協力無くしては日本代表活動は出来ません。今以上のお力をお貸し頂きますようにお願い申し上げます。改めて関係各位に御礼申し上げ報告といたします。

報　告

代表監督　**酒巻 清治**

2月3日～19日までレバノン・ベイルートにおいて、世界選手権アジア予選を兼ねた第14回アジア選手権が開催されました。結果については既にご承知の通り、予選ラウンドは2勝し1位通過であったものの、メインラウンドではサウジアラビアに苦杯をなめ、準決勝で韓国に敗れました。世界選手権への出場権を懸けた3位決定戦では、サウジアラビアを延長戦でリベンジし、アジア王者の奪還は叶いませんでしたが、世界選手権出場権の獲得という最低ラインの目標はクリアーできました。

ロンドンオリンピック出場は命題でありますが、その間に行われるアジア選手権での好成績と世界選手権への出場は、チーム強化に繋がります。アジア王者奪還は持ち越しとなりましたが、世界選手権に出場し世界の強豪と厳しいゲームを経験することはロンドン予選に活きると確信しています。

8月の欧州遠征（フランス・デンマーク）から大会直前のフランス遠征まで、日本代表が簡単に勝つことのできる相手を選ばず、受け入れ側には日本選手が常にストレスを持つ強豪を準備して欲しいとお願いをしました。その結果、当初不安視していた大型ポストプレーヤーに対しての守り方は格段に成長しました。どのようなDFシステムを組んだとしても簡単にポストプレーさせては到底勝ち目がなく、大会期間中を通して安定したDF力を発揮できたことは、この部分の成長が大きく作用したものであります。

しかしながら課題も多く在ります。DFについても別システムへの変化や、個人の判断による瞬時の対応力は十分ではありません。OFにおいては、ミス発生を恐れたことと個人技に頼りすぎたため、従来持ち合わせていた素早いパスワークが鳴りをひそめ、全員の機動力を効果的に活用することができず、悲観的にならざるを得ない状況も在りました。様々なゲームの局面に於いて、未だ充分ではなく、勿論理想を言えば切りがありませんが、理想を具体的な目的として捉えることができるだけの徹底した強化が必要であり、確実に日本の武器となるよう努力して行かなければなりません。

今大会の参加国とIOCからの制裁措置中であるクウェートを含めた国が、ロンドンへのアジア予選でもあいまみえることになります。各国とも、2年前と比べ様々な取組みをしています。イラクはスポーツを国復興の具体的手段と捉え、大会期間中は行政関係者が常に帯同し、長期計画を策定しています。地元のレバノンには国内リーグが存在し、1部リーグは10チーム、2部は8チームで構成され、代表の強化としてトルコ・サイプロス・チュニジアに頻繁に遠征を重ねているようです。サウジアラビア・UAE・カタール・バーレーンは外国人コーチを有し、シリア・イラン辺りは、ジュニア層の育成が順調のようであり、今大会には間に合いませんでしたが、今後日本にとって脅威となるのは間違いありません。今回日本代表に唯一学生界から信太（日体大）を選考しました。これは、偶々彼の調子が良いとか将来有望だからというだけではありません。ジュニア時代から代表経験は豊富であり、中東において辛い思いを何度も経験していること、ジュニアアカデミーで代表として心構えを教育されていること、などジュニア時代からの強化が実った例であります。各国の代表強化に対してどのように対抗していくのか、私は信太や元木（藤代紫水）あたりはモデルケースになるのではないかと考えています。2年振りにアジア連盟の大会に参加し、ある程度の「事」は承知で臨みましたが、いらぬ世話でありました。今大会が今まで苦しく辛い時間を過ごした我々の先輩や同僚たちに、「改善された」と言えるスタートであって欲しいと願い、選手たちは十分その期待に添う行動を示してくれました。大変誇りに思います。

大会準備から様々な方々にご協力頂きました。この場をお借りし御礼申し上げます。皆さんの力がなければ世界への道は開けませんでした。道半ばでは在りますが、今後とも引き続きご支援・ご声援頂きます様お願い申し上げ、簡単ではありますが大会の報告とさせて頂きます。有難う御座いました。

アジア選手権を終えて

代表キャプテン　末松　誠

2月6日～19日に中東（レバノン：ベイルート）でアジア選手権が開催されました。

今大会は2011年男子世界選手権の出場権をかけた大会ですが、男子日本代表の目標は世界選手権の出場権獲得ではなく、アジアチャンピオンという目標を掲げ大会に挑みました。

しかし、結果は目標であるアジアチャンピオンには届かず、残念ではありますが3位でした。

予選のグループリーグでは、２戦２勝で１位通過を決め、本戦ラウンドへ出場しました。

そこではサウジアラビアに敗れたものの準決勝へと駒を進め、対戦相手となったのは宿敵韓国でした。アジアの頂点に立つためには必ず勝利しなければならない相手でしたが敗戦に終わってしまい、３位決定戦でサウジアラビアと世界選手権の出場をかけて戦う事となりました。

目指すべき所はアジアチャンピオンでしたが、準決勝で韓国に負けてしまった以上、最低ラインである３位に入賞し、必ず世界選手権への出場権を獲得しなければなりません。

チーム一丸となり、日本のハンドボール界のためにも絶対に負けられない覚悟で戦った３位決定戦では延長戦で何とか粘り勝ち、世界選手権への出場権を獲得しました。

この結果を受けて、私達日本代表は「どうすればアジアでチャンピオンになれるのか」また「世界基準のハンドボールを実践するにはどのようなトレーニングをすればよいのか」を選手一人ひとりが考えなければなりません。そして、次のロンドンオリンピックでは、アジア予選通過という目標は勿論の事、オリンピックという大舞台で世界の強豪国相手に堂々と戦える日本代表を目指していきます。

今回、アジア選手権に、現地まで応援に来てくださった日本の皆様、そして日頃から私達ハンドボール選手を応援して下さるサポーター、ファンの皆様には心から感謝しています。

皆様の期待に応えられるように、常日頃から切磋琢磨し、世界を脅かす日本代表になっていきます。

これからも暖かいご声援を宜しくお願い致します。



戦　評

▼予選ラウンド第１戦（２月７日）

日　本　35（19 － 13、16 － 8）21　イラク

幸先の良いスタートを切りたい日本は、宮﨑・末松の連続速攻で２対０とすると、GK 高木も好セーブを連発し、開始５分で５対０とする。６分過ぎに武田の顔面に相手の肘が当たり、負傷退場するアクシデントもあったが、交代して入った門山がカットインを決めるなど、波状攻撃で 14 分、12 対５とリードする。中盤以降も宮﨑・野村らの連続得点で 15 対７とリードを広げる。しかし 20 分過ぎに日本が退場者を出すと流れが変わり、３連続失点で 16 対 12 と４点差に詰められる。しかし 27 分、イラクに退場者が出ると門山・猪妻らの得点で加点し、前半を 19 対 13 で折り返す。

後半、負傷退場から戻った武田がミドルシュートを決め 20 点目。高木と交代して入った GK 坪根も相手のシュートをシャットアウトし、12 分で 23 対 16 とする。14 分には代表デビューの日体大・信太が速攻を決め、東長濱・豊田・岸川と５連続得点で 28 対 16 としさらにリードを広げる。その後も宮﨑・東長濱らがパスカットから速攻を決めるなど、着実に得点を重ね 35 対 21 で勝利した。

【得点】９点：宮﨑、４点：豊田、信太、門山、３点：末松、東長濱、２点：武田、岸川、猪妻、１点：富田、野村

▼予選ラウンド第２戦（２月 11 日）

日　本　31（16 － 12、15 － 15）27　バーレーン

日本は立ち上がりから宮﨑・富田・野村らで得点し、５分まで４対４。６分過ぎバーレーンに退場者が出ると武田・豊田が連続得点を決め６対４とする。さらに 16 分、相手のパスミスを門山が持ち込み 10 点目を決めると、GK 松村の連続セーブから武田・末松がゴールし 12 対８とリードする。さらにリードを広げたい日本だったが肝心のシュートがなかなか決まらず、前半を 16 対 12 で折り返す。

後半、岸川・豊田らの得点で 20 対 14 と６点差をつける。このリードを保ちたい日本は富田・永島のポストシュート、宮﨑の豪快なミドルシュートなどで、20 分まで 28 対 24 とリードを保つ。その後も信太のミドルシュート、末松の技ありステップシュートなど加点していく。試合終了間際には GK 坪根が７ｍスローを阻止すると、東長濱がダメ押しのカットインを決め 31 対 27 で勝利し、本戦ラウンドへＢ組１位で通過した。

【得点】７点：宮﨑、５点：豊田、４点：末松・武田、３点：富田・野村１点：永島・岸川・信太・門山・東長濱

▼本戦ラウンド第１戦（２月 13 日）

日　本　29（15 － 10、14 － 10）20　カタール

メインラウンドの初戦、両チームとも緊張からかなかなか得点を奪うことができず、４分間無得点で試合は進む。ようやく４分過ぎに野村のミドルで先制すると、豊田・宮﨑が得点し３対１とする。さらに宮﨑の連続ゴールで５対２。11 分、日本が退場者を出す間に５対４とされるが、すぐに豊田の７ｍスロー、宮﨑のミドルシュートで７対４とリードする。中盤以降も富田・宮﨑が連続速攻を決めるなど、日本のペースに持ち込む。ディフェンスでは武田を中心とした６－０が機能し、相手のポストパスをことごとくカット。GK 高木もノーマークシュート、７ｍスローの阻止など日本のピンチを救う。残り 10 分を切ってからも末松・岸川・宮﨑・末松と４連続ゴールが決まり、前半を 15 対 10 で折り返す。

後半も攻撃の手を休めることなく、武田・門山・末松らの連続得点で 17 分に 22 対 12 と最大 10 点差をつける。中盤以降も信太のミドル、永島が得た７ｍスローのチャンスを前田が決めるなど、着実に加点して行く。最後は残り２秒、猪妻がダメ押しの速攻を決め、29 対 20 でメインラウンドの初戦を勝利した。

【得点】７点：宮﨑・末松、３点：豊田、２点：前田・岸川・信太・門山１点：富田・武田・猪妻・野村

▼本戦ラウンド第２戦（２月 14 日）

サウジアラビア　28（15 － 12、13 － 14）26　日　本

お互い初戦を勝利し迎えた２戦目。序盤から緊迫した試合展開になる。日本は野村が先制し、岸川・宮﨑らの得点で 11 分まで６対５と１点リードする。中盤は富田のポストや GK 高木の好セーブから豊田が速攻を決めるなど 15 分過ぎに 10 対７とリードする。しかし、サウジアラビアのタイムアウトを境に、４連続失点で 10 対 11 と逆転されてしまう。その後、門山らの得点で加点するものの、リバウンドが相手に渡ってしまう不運もあり、前半を 12 対 15 の３点ビハインドで折り返す。

後半、反撃したい日本だがシュートが決まらず、逆に連続失点で 13 対 20 とリードを広げられてしまう。しかし、相手が退場者を出す間に東長濱・宮﨑・武田と連続得点で 17 対 20 の再び３点差に戻す。その後も何度かあったパワープレーのチャンスに点差を詰めることができず、残り５分で 21 対 26。残り３分を切り、永島・野村・岸川の連続得点で追いつこうとするが時間が足りず 26 対 28 の２点差でタイムアップ。後半だけでサウジアラビアは７回も退場した

のに、このチャンスを活かしきれなかった。
【得点】6点：豊田、4点：宮﨑・岸川、3点：東長濱・野村、2点：富田・武田、1点：永島・門山

▼本戦ラウンド第3戦（2月15日）

日　本　36（21－11、15－12）23　イラン



直前の試合でサウジアラビアとカタールが引き分けたため、準決勝に進むためには絶対に負けられない戦い。立ち上がりからアグレッシブな6－0ディフェンスでイランのミスを誘うと、宮﨑・武田・豊田と3連続得点で3対0とする。14分にシュートミスから連続失点で7－6と1点差まで追いつかれるが、GK高木の好セーブをきっかけに富田・宮﨑の連続得点、さらに23分から岸川・野村・門山末松と4連続得点で18対10とリードを広げる。前半終了間際にも富田・末松の得点が決まり、前半を21対11で折り返す。

前半とガラリとメンバーを変更し臨んだ後半も、3分に門山の得点で23対13と10点差をつける。前半途中からゴールを守るGK坪根も好セーブを連発し、9分過ぎから猪妻・野村らの得点でさらにリードを広げていく。圧巻だったのが20歳の信太。15分、イランに退場者が出る間に、ポスト・カットインと3連続で得点し29対17とする。その後も猪妻・東長濱らの連続得点で25分、34対21。試合終了間際、信太から猪妻へのスカイプレーが決まり36対23で試合終了。本戦ラウンドAグループ2位となり、準決勝への切符を手にした。

【得点】8点：宮﨑、5点：信太、4点：猪妻・野村、3点：末松・門山・東長濱、2点：豊田・富田、1点：武田・岸川

▼準決勝（2月17日）

韓　国　30（14－12、16－11）23　日　本

宿敵・韓国との対戦は宮﨑・豊田の連続得点で始まる。8分、3対4と1点リードされている場面からGK高木の連続セーブで流れを引き寄せ、岸川・武田・野村の3連続得点で6対4とリードする。この流れでゲームを進めたい日本だったが、パスミスからの失点で6対6の同点に追いつかれると、シュートミスも重なり14分から5連続失点などで、22分に8対14と6点差をつけられてしまう。ようやくディフェンスが機能した日本はGK高木の連続セーブもありここから前半終了まで、韓国を無得点に抑える。その間に門山・豊田・末松らのシュートが決まり、前半を12対14の韓国リードで折り返す。

後半、良い流れを継続したい日本はシュートチャンスをつくるがゴールが決まらず、逆速攻など3連続失点で12対17とされると、悪い流れは続き、6分にも3連続失点で9分に13対20と7点差をつけられる。その後、末松・野村・門山らのカットインや永島のポストなどで得点するが、点差はなかなか縮まらず23対30でタイムアップ。アジア選手権の決勝進出はならなかった。



【得点】6点：豊田、4点：末松、3点：岸川・門山・野村、1点：宮﨑・武田・永島・信太

▼3位決定戦（2月19日）

日　本　33（14－12、13－15）30　サウジアラビア
（3－2　延長　3－1）

立ち上がり、相手のラフプレーでいきなりパワープレーのチャンスを得ると、日本は豊田のカットインで先制点を上げる。7分までは野村・宮﨑の速攻で加点し3対2とする。8分過ぎ、再びパワープレーのチャンスにGK高木の連続セーブから宮﨑・豊田の連続得点で5対3。このリズムを継続したい日本だったが11分過ぎ、ミスから4連続失点で6対7と逆転されてしまう。しかし、大会を追うごとに安定してきているディフェンスが相手のシュートミスを誘い、19分に再び末松・宮﨑の得点で9対8と逆転に成功。その後も宮﨑が連続ゴールを決めればサウジアラビアもエースが決め、前半を14対12の2点リードで折り返す。

後半開始直後、ミスから相手に速攻を許し、3連続失点で14対15とまたも逆転されてしまうものの、すぐさま宮﨑・豊田・武田のゴールで17対16とする。8分過ぎ、お互いに得点を重ね18対17となるが、ここでも逆速攻での連続失点で18対21と3点リードを許してしまう。東長濱の得点で1点返すが、連続失点で19対23とされ13分にこの試合最大の4点差をつけられてしまう。ここで踏ん張りを見せた日本は豊田・宮﨑・野村の得点で20分に24対24の同点に追いつく。21分、相手の7mスローが決まり24対25とされると、完璧なコンビプレーから永島が決めたポストシュートがラインクロスと判定され得点にならず、逆にミドルを決められ24対26。劣勢の日本はタイムアウトを請求するとエース宮﨑・武田が冷静にゴールを決め26対26の同点に追いつく。26分、ここで日本は2人連続で退場者を出してしまい、4人対6人の絶体絶命に。しかし、ここでも守護神・高木がノーマークのサイドシュートをセーブし、ゴールを死守する。28分に相手が退場の間に門山がカットインを決め27対26と1点リードすると、サウジアラビアもタイムアウトを請求し、最後まで1点を争う戦いに。29分、相手エースのミドルシュートをセーブするものの、リバウンドが相手に渡り27対27の同点となり決着は延長戦に持ち込まれる。



延長前半、サウジアラビアにミドルシュートを決められ27対28。落ち着いてプレーする日本は、豊田・東長濱・宮﨑の3連続得点で30対28とリード。このまま2点差で後半に進みたいところだったが、残り4秒で逆速攻を許し、30対29で折り返す。延長後半、再びサウジアラビアのミドルシュートが決まり30対30の同点になるが、東長濱がカットインから得た7mスローのチャンスを豊田が落ち着いて決め31対30に。さらに残り1分、豊田のミドルシュートが決まり32対30と2点差をつける。試合は、残り5秒に岸川が持ち込んだカットインが7mスローと判定され、ノータイムの7mスローをキャプテン末松が冷静に決め33対30でサウジアラビアに勝利。アジア選手権3位となり、2011年の1月にスウェーデンで開催される世界選手権への出場権を獲得した。

【得点】13点：宮﨑、10点：豊田、3点：末松、2点：武田、東長濱・野村、1点：門山

第18回 JOCジュニアオリンピックカップ2009 ハンドボール大会

【最終順位】

■男子

優　勝	名古屋市選抜
準優勝	沖縄県選抜
第3位	熊本県選抜
	福井県選抜

■女子

優　勝	福井県選抜
準優勝	富山県選抜
第3位	東京都選抜
	山口県選抜





【総評】大会を振り返り

大会事務局長　中谷秀将

第18回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会が、過去17年間行われてきた大阪府堺市から愛知県名古屋市へと開催地を移し、12月24日（木）～28日（月）までの5日間、枇杷島スポーツセンター、緑スポーツセンター、中村スポーツセンター、稲永スポーツセンターの4会場で開催され、全国9ブロックを勝ち抜いた男女各24チーム（全48チーム）で熱戦が繰り広げられた。

本大会は、各都道府県が選抜チームを構成して出場するため、実力を備えながらも単独チームでは全国大会というひのき舞台に登場できなかった選手が、全国大会に再チャレンジできる大会として注目されるようになってきた。近年では出場チーム数の増加にともない、中学校カテゴリーの集大成を発揮する大会としての地位も確立され、ハイレベルな試合展開で大変な盛り上がりを見せる大会となってきている。その中で、今年度も4つの都道府県（男子：佐賀県選抜、鹿児島県選抜、女子：鳥取県選抜、福岡県選抜）が初出場を果たし、「将来オリンピックや世界選手権で日本代表として活躍するジュニア選手の発掘と育成」という目的にふさわしい大会となった。

初日の開会式では、北京五輪ソフトボール競技でエースとして活躍し、日本に初の金メダルをもたらした上野由岐子選手から、チームの和を大切にして人一倍努力することで夢が叶うことなど、将来のハンドボール界を担う可能性のあるジュニア選手たちに激励の言葉が投げかけられた。

大会は、予選リーグを男女共に3チームづつの8ブロックに分け、各ブロックの1位が決勝トーナメントへ駒を進める方式で実施された。試合は、予選リーグから熱戦が繰り広げられ、48試合中12試合が3点差以内という緊迫したゲームが多かった。大会4日目には、決勝トーナメント準々決勝および準決勝が行われ、予選を勝ち抜いた8チームが頂点を目指して、一層ハイレベルな試合を展開した。

特に女子は、準決勝・決勝とすべて3点差以内の接戦が続いた。そんな中、夏の覇者である光陽中学校を主体する福井県選抜が、準々決勝の熊本県選抜を1点差で、準決勝の東京都選抜を後半一時同点に追いつかれながらも振り切り、決勝では同じ北信越ブロック代表の富山県選抜を逆転で交わして夏冬2冠、2年ぶり3回目の優勝を果たした。

男子は、春夏とすでに2冠を達成していた地元はとり中学校を主体とする名古屋市選抜と昨年度JOC大会優勝で連覇を狙う沖縄県選抜が、順当に決勝へと駒を進め激突。中学校大会の最後を飾るにふさわしい激闘の末、名古屋市選抜が初優勝、はとり中学校としては3冠を達成しとげ地元開催に花を添えるかたちとなった。

開催地が今年度より名古屋市に移行したことで、不慣れで行き届かない点が多く、多方面でご迷惑をおかけしたことと思います。しかし、これまで17年間もの長きに渡り、本大会を盛り上げてこられた大阪協会や堺市の意志を引き継ぎ、より一層盛り上がる大会となるようにと、県内・市内のスタッフ一同尽力してまいりました。反省点は次年度に生かしていく所存ですので、至らなかった点はご容赦いただければ幸いです。

最後になりましたが、年末の慌しい中、全力を尽くしてプレーした選手や応援していただいた保護者の皆様、指導を重ねてこられたチームスタッフの皆様、大会役員や審判員、後援いただいた企業・団体・個人の皆様、県内スタッフや補助役員の中学生など多くの方々の支えで、大会が盛り上がり、無事終了することができたことに深く感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

【個人表彰】

■男子	■女子
▼オリンピック有望選手	▼オリンピック有望選手
齋藤　凌（岩手県選抜・花巻北中）	永田美香（福井県選抜・光陽中）
	佐々木春乃（富山県選抜・堀川中）
▼最優秀選手	▼最優秀選手
笹川泰平（名古屋市選抜・はとり中）	木村有沙（福井県選抜・光陽中）
▼優秀選手	▼優秀選手
比嘉成希（沖縄県選抜・浦西中）	森　優稀（富山県選抜・氷見北部中）
安倍竜之介（岩手県選抜・松園中）	三田未稀（東京都選抜・葛西三中）
瀧澤尚也（群馬県選抜・富岡南中）	田村美沙紀（山口県選抜・岩国中）
多田圭佑（岐阜県選抜・鶉沼中）	古賀美穂（京都府選抜・大住中）
川島悠太郎（福井県選抜・明倫中）	上田聖菜（熊本県選抜・玉名中）
田中　圭（福井県選抜・明倫中）	谷川祥子（神奈川県選抜・西中原中）
下村周平（山口県選抜・岩国中）	鈴木歩乃佳（三重県選抜・笹川中）



男子優勝 名古屋市選抜

名古屋選抜監督　深見 忠司

この度は、第18回JOCジュニアオリンピックカップにおいて優勝することができ大変嬉しく思っています。これもひとえに、ご支援、ご協力いただいた保護者の方々、愛知県、そして名古屋市の先生方のおかげであると深く感謝しております。

また、チームスタッフとして鳥本先生・中村先生・丹野先生・トレーナーの加藤さんとチームのためにご協力いただき、本当にありがとうございました。

春と夏の全国大会二冠、そして今回の大会が地元開催ということもあり、周りからの優勝！　三冠という期待！　夏とは比べられないプレッシャーを感じながら名古屋選抜の練習をスタートしました。

出場するからには、最初の練習時から生徒にも保護者の方々にも優勝することを目的に活動を行うと宣言しました。特にチームの中心となるはとり中学校のメンバーには、もう一度全国の頂点に立つためには、毎日練習をすることが必要だと確認し、新チームの練習の中で今まで以上の心技体を身につけるように徹底をしました。また、選抜チームにおいても、チームをしっかりと引っ張るようにキャプテン鬼頭には指示を出しました。

ただ､選抜チームの練習ではやはり各チームの戦術の違い、コミュニケーションがうまくとれないなど問題は多く、そこをどう徹底するかなど悩みましたが、選手たちがとにかく一生懸命に取り組み、また、個々のモチベーションの高さで、チームとしてのまとまりも徐々に出てきて、大会直前には心が一つにまとまったのではないかと感じました。

大会に入ると、地元開催ということもあり観客からの声援の大きさを選手たちがしっかりと感じ、それを追い風にどの試合でも、名古屋選抜の長所をしっかりと出すことができたと思います。特に最後の決勝戦、選手たちの最後まで諦めずに足を動かしたDF、絶対に1点を取るというOF、そして絶対に優勝するぞ！というスタッフも含めた全員の気持ち、すべてが最高の高まりをみせた試合だったことにとても満足しています。

そして最高の結果…優勝！　三冠！

最後になりましたが、大会事務局長の中谷先生をはじめ、今大会を支えていただいた役員の方々に最高の舞台でハンドボールをやらせていただいたことに感謝したいと思います。ありがとうございました。

また、春と夏そしてJOCと三冠を達成できたのは、自分の指導を信じ、必死に最後まで取り組んでくれた、はとり中学校の生徒のおかげだと思っています。本当にありがとう！

そして最後までご協力いただいた保護者の方々、本当にありがとうございました。

名古屋選抜主将　鬼頭 篤史

ぼくは第18回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会で優勝できたことをとてもうれしく思います。初の名古屋開催ということで地元の声援が大きく、ぼくたちの力になりました。また、練習相手をさせていただいた愛知高校との練習が力となり、それもまたこの優勝という結果につながったと思います。

日々の練習はつらかったです。走り込みに始まり走り込みに終わる。しかしぼく達は、そんな厳しい練習を盛り上げ、楽しんでやることができました。それが今では、他県から集まってくる優れた選手にも走り負けないことに結びついたんだなと感じます。

毎日の練習をやる中で問題点が一つありました。それは選抜チームということで一緒にプレーしたことのない人とチー



ムを組み、試合をすることです。パス、キャッチなどのタイミングが合わなかったり、DF での声の連係が合わなかったり…。しかしその問題点を消すための声をかけ話し合い、練習以外のところでもコミュニケーションをとったりして名古屋選抜というチームは強化されていきました。そして試合の日を迎え、一人一人のモチベーションが高いまま試合に臨むことができました。そして、その結果この優勝という成績を残すことができ本当にうれしく思います。はとり中では "史上初の３連覇" という夢を叶えることができました。今でもまだ実感がわきません。勝因は、ズバ抜けた選手はいないが名古屋選抜という組織だから勝てたと思うし、毎日の走り込みの成果が十分に発揮できたからだと思います。また、監督である深見先生、コーチやトレーナー、保護者や応援して下さったすべての人に感謝したいと思います。そして、これまでの経験を生かして、高校ハンドボール界で輝けるような選手になりたいです。

女子優勝 福井県選抜

福井県選抜女子監督　高野 郁代

JOC ３度目の優勝を目指して

第 18 回 JOC ジュニアオリンピックカップ 2009 ハンドボール大会におきまして、優勝できましたことを心から嬉しく思っています。これもひとえに、日頃よりご支援、ご協力頂いている県ハンドボール協会や学校関係の方々、保護者の方々のおかげであると深く感謝しています。また、長い間に渡る小学校の指導者の熱意や昔からのハンドボール地区を上げての応援が結果として残ったことだと思います 。本当にありがとうございました。

今回で 18 回目を迎える JOC は今年から名古屋開催となりました。その節目の年に、福井県女子として３度目の優勝を飾ることができました。これは、生徒たちにとっても、また、私自身にとっても大変幸せなことだと思います。ここ３年間で、本県チームは優勝２回・準優勝１回というすばらしい結果を残せています。福井市内に女子は５チームしかありません。そのうち３チームには小学校からの経験者が入ってきます。JOC は選抜なので選手を選考してはいるのですが、なかなかこの時期までハンドボールを続ける気持ちがもてなかったり、チーム力に差があって練習について来られなかったりして、選手が集まらないことも現実です。今回も、夏の全国大会で優勝した光陽中のメンバーをそのままスタメンとして起用し、安居中学校から４人を補充して大会に臨みました。夏の全国大会では優勝することができた光陽ですが、JOC 北信越予選後は受験前である３年生の生活環境も変わり、例年になく思うように練習時間も取れず、不安と焦りの中での毎日でした。

そして、何より心配だったことは、全中での優勝を目標に（先輩たちのリベンジ）死にものぐるいで練習してきたため、目標が達成できた後のモチベーションが下がっていたことでした。選抜になると他県の選手層も厚く、能力の高い選手がたくさんいることを何度伝えても生徒たちの意識は低くなっていました。生徒は口を揃えて「JOC 優勝！」と言っていましたが、長年経験している私としては足りない部分が全中より増えていることに、大きな不安を抱えていました。また今年はインフルエンザを防ぐことにずいぶん神経を使い、大会出発後もマスク・手指消毒を徹底させましたが、それも不安材料の一端でした。

DF から速攻と、多彩な攻撃を武器に戦うことは決まっていましたが、練習量の少ない３年生と、新チームの要になり更にスピードがついた２年生木村（最優秀選手）との間に微妙なズレが生じ、得意なプレーがミスで終わってしまう場面が多く見られました。特に決勝トーナメントからは苦しい試合が続き、試合終了時コートに５人しかいなかったり、ラスト５分からようやく突きはなしたりとひやひやする場面ばかりでした。それでも生徒たちの粘りや、キャプテン川崎の最後まであきらめずに強気で攻める姿勢を信じていました。決

して目立つ存在ではないけれど、誰にも負けない心の強さや決勝戦の要所要所での得点など、彼女のプレーは長い監督生活の中でも本当に感動するものでした。本人が泣きながらDF に戻るのを見て、日頃の努力を知っているだけに、思わず一緒に泣いている自分がいました。こうして迎えた終了のホイッスル、感動の一瞬でした。夏の全中はホッとし、今回は感動を胸に光陽中としては２冠・福井県としては３度目の優勝を果たすことができました。長年 JOC で苦労を共にしてきたコーチの安居中・加納先生や、最後まで光陽中の仲間を信じてついてきてくれた安居中４人（GK 永井・PK 大久保・谷口・山下)、そして素晴らしい光陽中の生徒たちと共に、この優勝を宝物としてこれからもハンドボールに恩返しをしていきます。ハンドボールに出会い、厳しさの中にある優しさを教えてくださった谷口先生（元小松市立女子高校）や藤原先生（日体大）は、今の私の指導者としての基礎になっています。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、今大会で運営にあたられた愛知県の大会関係者のみなさま、陰で支えていた中学生のみなさんに心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

選抜女子主将　川崎彩花（光陽中学校）

一生の宝物

２年前の JOC 決勝戦、１年生だった私は、応援席から、抱き合う先輩方の姿を見ていました。顔中に光る汗と満面の笑顔。それは頂点を極めた人だけが味わえる最高の喜びだ…と思った瞬間、体中に鳥肌がたち、そして自分も２年後には絶対、この輪の中に入ってみせると心に誓ったことを覚えています。しかし、去年、夏の全国大会で負けて準優勝、今年の大会は自分の中では大きなプレッシャーと、雪辱を期する気持ちの入り混じった特別な意味を持つ JOC となりました。

夏の全中では、日本一の練習をしてきた自信がありましたが、生活も変わり、練習時間もとれず、不安と焦りを抱えて名古屋に入り、気持ちの盛り上がりが今一歩でした。その上、キャプテンである私が、直前に右手親指を怪我したことも大きな不安材料でした。

そんな中始まった全国大会。それでも何とか勝ち上がっていきましたが、準々決勝や準決勝は今まで経験したことのないぐらい苦しい試合となりました。一番つらい時にチームがひとつになれず、キャプテンの自分が変えなくてはいけないと焦れば焦るほど空まわりしてしまう。考えてみれば自分で自分を見失っていたのだと思います。そして、その奥にはきっとチームのことより、自分の不安を優先してしまっていた弱い気持ちがあったのだと思います。しかし、そんな中、私たちは辛うじて決勝までのぼりつめることができたのです。

決勝前日のミーティング。２年前の JOC で優勝した先輩たちの DVD を見ました。そこには、本当にのびのびと楽しそうにプレーをしている先輩たちの姿があって、そのひたむきさに衝撃を受けました。ああ、私たちは試合を楽しむということをしてなかった。３年間を締めくくる大切な大会なのに…ここにいる全員で楽しまなくちゃ、損じゃないか。

そんな熱い気持ちが私の中に湧き起こってきました。

ついに決勝戦。決勝の相手は何度も戦ったことのある富山。しかし選抜チームでどうなるかわからず緊張が高まりました。試合開始から続く競り合い。しかし、それでもあきらめずこれまでとは違い、全員で一点を取りにいきました。前半、リードされての折り返し。チームのムードは高まるばかりで負ける気はしませんでした。みんなが本当に最後の試合を完全燃焼するために３年間の集大成で全てを出しきって、最後は一丸となり、念願の優勝を手にすることができました。この瞬間、これで中学校でのハンドボールは終わってしまったなという寂しさと、ようやく勝つことができたという安心感でいっぱいでした。やっぱり３年間充実していたと思えたのも、最後の最後で優勝することができたからだと思います。コートの中で味わった今回の感動は、２年前観客席で味わったものとは、比べものになりません。この優勝の輪の中に自





2点共　写真提供・スポーツイベント社

分がいられることは、何にも変えがたい喜びでした。みんなで抱き合い先生を胴上げできて、私の夢は、ここで全てかないました。

3年間私たちがハンドボールを続けてこられたのも、数え切れないほどの大勢の方々のサポートがあったからです。言葉では言い尽くせないほど、本当に心から感謝しています。

他では味わうことのできない優勝という素晴らしい結果を手に入れられた、「たったひとつの笑えるチーム」。一生忘れません。

これからはそれぞれの道に進んでいきますが、みんなと頑張ったことは最高で最大の思い出です。「あきらめなければ、努力を続ければ、必ず夢はかなう」今回の教訓となったこの言葉を胸に刻み、これからもしっかり前を向いて歩んで行きたいと思います。ハンドボールから学んだことを忘れずに！

戦　評

男　子

▼準決勝

名古屋市選抜　28（16 − 8、12 − 12）20　熊本県選抜

前半7分、5対4と名古屋選抜がリードしたものの、序盤は一進一退の攻防が続いた。しかし、ここから試合の主導権を握ったのは名古屋選抜。自慢の堅いDFが機能し始めると、9番笹川のカットイン、5番鬼頭のスタンディングシュートなどで6連取。12分過ぎには11対4とリードを7点に広げる。一方、追いかける熊本選抜も5番子本のポストシュート、13番美並のサイドシュートで得点を重ねるが、名古屋選抜のリードは揺るがず、16対8で前半を折り返した。

後半、8点を追いかける熊本選抜は、名古屋選抜の5番鬼頭、9番笹川の2人にマンツーマンディフェンスをつけ、名古屋選抜のリズムを崩すことに成功。熊本選抜は、前半に見られなかった連続得点で後半ペースをつかむ。しかし、前半のリードを守護神12番溝川の好セーブなどで守りきった名古屋選抜が勝利をおさめた。

沖縄県選抜　28（12 − 12、16 − 13）25　福井県選抜

前半4分、立ち上がりからの3連取で3対0と福井選抜がリードを奪う。しかし、すぐさま沖縄選抜も反撃開始。6分には3対3と同点に追いつく。その後、徐々にペースをつかんだのは福井選抜。8番谷嶋、9番牧野のサイドシュート、速攻などで着実に得点を重ねると15分には3点リード。ここで沖縄選抜は、福井選抜の3番川島、7番田中にダブルマンツーをつけ、福井選抜の攻撃を押さえると16分過ぎからの5連取で一気に逆転、10対12とする。しかし、追いかける立場となった福井選抜は残り1秒で12対12と同点に追いつき、互いにゆずらずに前半を終えた。

後半、均衡した状態から、沖縄選抜11番福田の速攻、7番比嘉のロングシュートなどで6連取。14分には16対22と6点のリードを奪う。福井選抜も最後まで食い下がるが、一度たりとも点差を埋めることができずにタイムアップ。28対25で沖縄選抜が勝利をおさめた。

▼決勝

名古屋市選抜　26（15 − 10、11 − 12）22　沖縄県選抜

3冠を狙う地元はとり中学校主体の名古屋選抜とJOC大会2連覇を狙う沖縄選抜の対決となった男子決勝戦は、沖縄選抜のスローオフで始まった。序盤は2番具志堅、7番比嘉の力強いシュートを中心に得点を重ねる沖縄選抜に対し、どこからでも得点できる多彩な攻撃力を持つ名古屋選抜も負けじと得点を重ね、互角の戦いとなった。試合が動き出したのは17分過ぎ。名古屋選抜がGK12番溝川を中心に堅いDFで沖縄選抜の攻撃を封じ込め6連取。23分には5点差をつけ、15対10で前半を折り返した。

後半に入り、沖縄選抜は高い位置での3 − 2 − 1DFからの速攻に活路を見いだし逆転を狙う。しかし、名古屋選抜は16番大橋の活躍などで試合を優位に進めた。15分過ぎからは怒濤の攻撃を見せた沖縄選抜が23分には3点差まで詰め寄るが、その後、7番比嘉が退場して万事休す。両チームともに運動量の多い、力強いプレーで熱い戦いを展開した。

男子決勝は26対22で地元名古屋選抜の優勝で大会に幕を閉じた。



女　子

▼準決勝

福井県選抜　28（12 − 9、16 − 16）25　東京都選抜

東京選抜のスローオフで始まった準決勝第1試合は、東京選抜の7番杉本のロングシュートが開始早々決まった。すぐさま福井選抜の4番重久のロングシュートで取り返し、熱戦の火ぶたが落とされた。東京選抜は高さのある福井のディフェンスに苦しみながらも、近い間合いからのパス回しで切り崩し、得点をあげる。対する福井選抜は大型ポスト3番永

田を効果的に使い得点を重ね、徐々に引き離しにかかった。21 分過ぎに 4 点差になったところで、東京選抜はたまらずタイムアウトを請求。しかし大きく流れを変えるには至らず、12 対 9 と福井選抜リードで前半を折り返した。

後半立ち上がり、福井選抜は速攻からの連続得点でこの試合最大の 6 点差をつけ、このまま試合を有利に進めるかと思われた。しかし、ここから東京選抜の動きがよくなり、16 番西笛の確実な左サイドシュートなどで徐々に点差を縮める。19 分過ぎには速攻も決まり、22 対 21 と 1 点差まで詰め寄ったところで、福井選抜がタイムアウトを請求。しかし、東京選抜の勢いは止まらず 20 分過ぎにはついに同点に追いついた。このまま逆転するかと思われたが、ここから福井選抜は勢いを押し戻し、残り 4 分で 6 点を入れる怒濤の攻撃を見せ、粘る東京選抜を 28 対 25 で振り切った。

両チームともに最後までスピーディーな動きを持続し、準決勝にふさわしい好試合であった。

富山県選抜　27（13 － 12、14 － 13）25　山口県選抜

立ち上がり、両チーム速い攻撃をしかけるも両 GK の奮闘により互いにペースがつかめず。山口選抜の 4 番田村の 3 連取で突き放しにかかるも、富山選抜の 10 番佐々木、4 番池森らで 5 連取して 2 点リード。たまらず山口選抜はタイムアウトを請求して落ち着き 2 点を取り返すも、富山選抜が速攻、ポストで再びリード。守っても 1 番山田が速攻を阻止。前半ラスト 3 分で追いつきたい山口選抜は、相手の 7 m スロー失敗を速攻につなぎ 1 点差まで詰め寄って前半を終える。

後半、富山選抜が抜け出そうとするも、山口選抜が追いすがり、富山選抜 2 点リードで試合が進む。16 分山口選抜の 4 番田村のサイドシュートで同点、さらに 7 番梅岡の速攻でついには逆転する。しかし、すぐさま富山選抜も速攻で取り返し同点、逆転と再びリードを奪う。山口選抜はタイムアウトを請求し、再度逆転を狙うも、最後は富山選抜の 3 番森のカットインが決まり試合終了。決勝へは富山選抜が進出。

この試合は退場者が 1 人も出ない、両チームともにクリーンな好ゲームであった。

▼決勝

福井県選抜　22（10 － 11、12 － 8）19　富山県選抜

夏に続く 2 冠を狙う福井選抜と、第 1 回大会以来 2 度目の頂点を目指す富山選抜との組み合わせとなった女子決勝。互いに堅い DF を前に得点を重ねることができず、10 分過ぎ 5 対 4 と福井選抜がリード。その後、福井選抜の 3 番永田のポストプレーから 5 番田中がサイドシュートで得点をあげる。対する富山選抜は 10 番佐々木が前半だけで 5 得点をあげるなど、高い福井選抜 DF を打ち抜き、富山選抜 1 点リードで前半を終える。

後半、福井選抜が 3 連取で一気に突き放すかと思われたが、富山選抜の 5 番東が速攻、サイドシュートと得点を重ね、15 分には 17 対 17 と同点に追いついた。そこから福井選抜がミドルシュート、サイドシュート、速攻と 3 連取。その後、2 連取と得点をあげ、試合を決める。富山選抜は最後 10 番佐々木がミドルシュートを決めるも時すでに遅く、福井選抜が逆転で 3 度目の優勝を飾った。

両チームの奮闘により、決勝戦にふさわしい好ゲームであった。

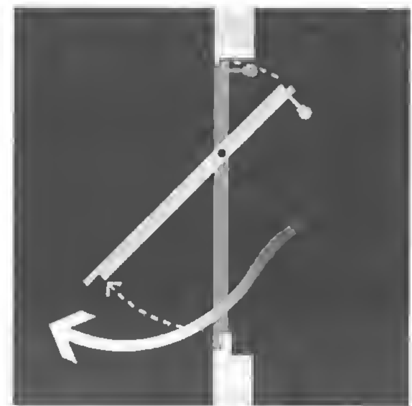




呼吸する建築







Swindow スウィンドウ

わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。



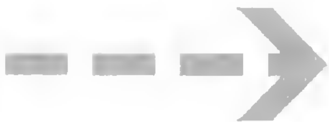


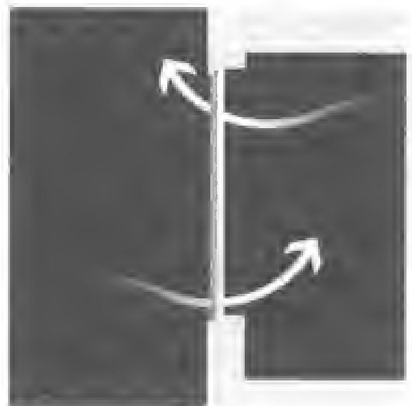


Wincon ウィンコン

内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。







Cavcon キャブコン

内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社

東京本社／ 〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL（03）5348-0367

インターネットホームページ http://buildingsash.net/

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2010



［最終順位］
優　勝：八光自動車工業株式会社
準優勝：H.C 愛媛 Armada
3　位：高知クラブ
4　位：金沢市役所ハンドボール部
5　位：トクヤマ
6　位：豊田自動織機
7　位：新日鐵名古屋
8　位：ブラザー工業
9　位：大阪ガス
10　位：マツダ

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2010大会を振り返って

全日本実業団ハンドボール連盟理事長　原田 孝幸

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2010大会は、高知県ハンドボール協会様のご尽力を賜わり2月12日～14日の3日間、高知県高知市五台山「高知市東部総合運動場くろしおアリーナ」にて開催いたしました。今年度で41回目となった今大会を無事終える事ができましたのも、高知県ハンドボール協会様を始め大会関係者の皆様方、他数多くの方々のご尽力・ご協力の賜物であり心より感謝とお礼申し上げます。

さて、今大会は、昨年度優勝のホンダ熊本（熊本県）、セントラル自動車（神奈川県）が欠場したため昨年度3位の八光自動車工業株式会社（大阪府）をシードとし、残り9チームはフリー抽選で全10チームのトーナメントによる戦いとなりました。

地元の高知クラブは、初戦の豊田自動織機（愛知県）に競り勝ち、準決勝は八光自動車との対戦となった。前半は高知クラブ2点リードで折り返すが、過去3回の優勝経験のある八光自動車が勝負強さを見せ1点差で逃げ切り決勝に駒を進めた。38回大会、同会場（くろしおアリーナ）で優勝した金沢市役所は、初戦を勝ち進み準決勝はHC愛媛との対戦となった。前半は金沢市役所3点リードで折り返すが、後半HC愛媛のDFが機能しだし、金沢市役所のミスからの逆速攻で得点を重ね1点差で金沢市役所に競り勝ち決勝に駒を進めた。決勝は、経験豊富な八光自動車と若さのHC愛媛の対戦となった。序盤から攻守ともに安定感を見せた八光自動車が11点差を付け2年振り4回目の優勝を飾った。

今大会は僅差のゲームが多く、出場した全チームの勝ちに拘る執念が見られ、レベルの高い大会であった。

■3位決定戦：2月14日（日）
高知クラブ　27（14－13、13－13）26　金沢市役所ハンドボール部

3位決定戦は38回大会決勝戦のリベンジとも言える組合せとなった。前半立ち上り、金沢市役所は2番能浦・8番宮崎で2連取し、その後、9番小林の3連続得点で高知クラブを引き離す。高知クラブは2番和田・7番武田・8番澤田で次々と得点を重ね、前半20分過ぎに逆転し前半を1点リードで折り返した。

後半は18分過ぎまで一進一退の攻防が続くが、7番武田・13番田口の連続得点で高知クラブが2点リードし逃げ切るかに思えた。金沢市役所も10番豊田・18番浅永の連続得点で1点差に詰め寄るが、高知クラブは残り1分に4番鈴木のシュートが決まり2点リードとする。残り30秒で金沢市役所9番小林のミドルシュートが決まり、再び1点差に詰め寄るがタイムアップ。高知クラブが3年前のリベンジを果た

した。

■決勝：2月14日（日）

八光自動車　28（14－6、14－11）17　HC 愛媛 Armada 工業株式会社

決勝戦は、お互いに準決勝で1点で競り勝った八光自動車と HC 愛媛 Armada との戦いとなった。

前半、八光自動車は2番服部・4番上内・5番掘上・11番高野らで7連続得点し、開始9分でゲームの主導権を握った。HC 愛媛は10分過ぎにようやく9番松本のシュートが決まり、その後、一進一退の攻防が続くが、序盤の連続得点もあり八光自動車が8点リードで前半を折り返した。

後半に入っても八光自動車は攻撃の手をゆるめることなく徐々に点差を広げゲームを優位に進めた。8分過ぎに HC 愛媛も2番真鍋・9番松本らの4連続シュートで詰め寄るが、八光自動車も10番澤本・11番高野・14番日高で得点を重ね、11点のリードで八光自動車が2年ぶり2回目の優勝を飾った。

勝ちに拘った大会

八光自動車工業株式会社監督　福島 剛志

今回の大会参加の目的はとにかく『勝つ』という事に拘りました。当たり前の目的なのですが、チャレンジディビジョンでは前半リードしていても後半にリズムを崩しそのままズルズル逆転という試合が続いていた為、確実に主導権を取りながら試合を終始支配できるチーム力を備える為でした。また、昨年度優勝を逃しているため、企業としてもしっかりとタイトルを取らなければいけない状況でした。そういった中、今回優勝できました事は非常にうれしく思います。

試合は地元の高知クラブにミスからリズムをつかめず、一点差と厳しい試合展開でしたが、悪いなりに失点を少なく抑えられた事により勝つことが出来ました。決勝は初対戦の HC 愛媛。非常に若くて勢いがあり、観戦した試合でも速攻がすばらしいチームでした。前日の反省も含め前半で勝負を決めるべくディフェンスから速攻で一気に7連取でリズムに乗り、快勝する事が出来ました。

現在、八光自動車は部員12人と参加チームの中でも少人数で、平均年齢も上がり厳しい状況にあります。練習も週に1回すら出来ない状況ですが、少ない練習でもしっかりとチーム力を蓄え、質の良いハンドボールが出来るように、今後も取り組んで行きたいと思います。

参加チームが減少していますが、八光自動車として継続した活動でハンドボール界の発展に少しでも寄与できるように、そして1チームでも多くのチームに新たに参加して戴きたいと思います。最後になりましたが、大会運営にあたりご尽力いただいた大会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



平成22年度 事業計画

1．競技力向上（強化）に関する事業

【基本方針】

「アジア、世界で戦う体力強化と強靭な精神力の強化」

1、情報を共有化し各連盟、スクール、地域協会との連携を取り強化組織の構築を図る。
2、NTS での指導者育成、選手発掘に再注力し、ジュニアアカデミーでの育成の強化を図る。
3．強化委員の役責を明確にし、各カテゴリー強化施策の進行状況の把握に努める。

【重点施策】

1、体力強化プロジェクトの発足
　(1) JISS 分析班、JHA 強化分析班と連携を図りアジア、世界対策に努める
　(2) 各カテゴリーヘッドコーチと連携を図り栄養、体力強化の一貫指導に努める
　(3) 各カテゴリーチーム強化、個々強化の指導案作成
2、味の素 NTC を活用したアカデミーでの教育
　(1) 専任コーチの役割
　(2) 定期的な海外遠征と国内強化合宿の実施
　(3) 味の素 NTC と連携を図り栄養管理の下、体力向上に努め指導及び各競技団体との連携を図る
3、日本リーグチームとの連携強化
4、情報・科学サポート
5、医事専門委員会のサポート
6、アンチドーピングの徹底

2．普及･指導に関する事業

≪普及関係≫

【基本方針】

1．少年チームの運営活性化
2．小学校教科ハンドボールの普及と授業実践の推進
3．中学生大会の充実
4．生涯ハンドボール体系の確立

【重点施策】

1、小・中学生チーム実態把握調査の実施
2、少年大会運営、チーム経営の基本的理念の検討
3．研究大会の充実、授業実践推進
4、中学生チームの普及、指導者研修の推進
5．ビーチハンドボールの組織整備
6．マスターズ委員会の組織整備

≪指導関係≫

【基本方針】

1．指導者の育成(各指導員養成の推進)
2、海外情報収集（海外派遣選手団等より）
3、NTS・JHA ジュニアアカデミーとの連携

【重点施策】

1．公認指導者組織の整備（養成･研修）
2．U－19までの指導体系の確立（小･中学生専門委員会との連携）
3、ハンドボール指導理念の確立

3．競技運営に関する事業

【基本方針】

1、日本協会主催、共催大会及び国際大会の管理運営にあたる
2、社会人連盟の定着を図る
3．日本選手権構想を具体化する
4、日本体育協会主導でなされている国体改革案に、ハンドボール協会の意見を反映させる
5．競技用具、検定制度を充実させる

【重点施策】

1．大会開催マニュアル、競技運営マニュアルの改訂、充実を図る
2．競技役員の資質向上を図る
3、社会人連盟の業務を推進する
4．協会内の国体改革の意見をまとめ、日本体育協会の改革案に協会の意見を反映させる
5．競技用具の改良、開発を図り、検定制度を充実させる
6、競技役員の資質向上を図るための講習会を開催する

4．競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】

1、レフェリーアカデミーの実質的な運用
　(1) YRP・JHA レフェリーコース・A／B級公認審判員審査会との連係と体系化
　(2) レフェリー育成事業の実施および充実
　(3) NTS・JHA ジュニアアカデミーとの連係
2．トップレフェリーの資質向上および育成
　(1) トップレフェリー研修会の開催
　(2) 各カテゴリー代表チーム合宿参加
　(3) 日本リーグを吹笛できる若いレフェリーの育成
3、競技規則の正しい運用
　(1)「審判員の目標」を徹底
　(2) 国際事情の分析および伝達
　(3) 2010 年版競技規則書の発行
4．AHF・IHF レフェリーコースの国内開催および参加

【重点施策】

1、レフェリーアカデミーを推進
　日本リーグ、社会人、大学、高校、中学等の各連盟にご理解とご協力を得ながらレフェリーアカデミーを体系化。各大会においてヤングレフェリーが吹

笛出来る機会を作る。

2．レフェリー講習会の内容充実と競技規則の正しい運用
レフェリーのみならずトレーナー、選手に正しいルールを理解してもらうことが必要。各地区のレフェリー講習会にトレーナー、選手の参加を働きかける。

3、AHF レフェリーコースの開催準備
IHF ヤングレフェリー構想の煽りを受け、AHF および IHF のコンチネンタルレフェリーの登録ペアはいなくなった。コンチネンタルレフェリーの育成は急務である。

4．選手同様に審判員も期日内の登録を徹底

5．レフェリーアカデミーを卒業したレフェリーの積極的な起用と女子レフェリーの育成および全国大会へのノミネートを増やす。

5．総務に関する事業

【基本方針】

新公益法人制度に対応した法人格へのスムーズな移行準備を進めると共に、事務局業務の効率化を行い総務委員会案件はもとより、他委員会案件の積極的なサポートを行い事業進捗のスピード化を図る。

【重点施策】

1、新法人格（公益財団法人等）への対応、準備
2．事務局業務の効率（業務配分の見直し等）
3．記録の整理・充実
4．環境保全への積極的な啓発と実践活動
5．個人情報保護法の遵守と徹底
6．日本協会設立 75 周年記念事業準備委員会

6．国際に関する事業

【基本方針】

1．世界各国のハンドボール連盟との連携と貢献
2．日本ハンドボール協会および連盟やチームなどの国際的活動支援
3．国際大会等の支援（連絡・交渉・情報収集）
4．国際会議への参加と支援

【重点施策】

1．IHF 総会出席
2、IHF・AHF との連携と諸会議への出席
3．アジアハンドボール連盟主催大会の正常化
　(1) アンフェアな運営をなくすために IHF 管理下で実施するための諸施策の推進
　(2) 東アジア連盟主催の公式試合・会議などの支援
　(3) 東南アジア・南アジア諸国との連携とそのサポート
　(4) アジア連盟選挙策と諸会議への参加とそのサポート
4．日本代表チームなどの海外国際大会の事務的なサポート
5、国際会議の開催と支援
6、外国の情報収集とその活用
7．海外移籍の事務的サポート

7．財務･会計に関する事業

【基本方針】

平成 22 年度も、昨年以上に財政を取り巻く環境は厳しい状況にあり、縮小均衡を前提に緊縮財政に取り組まなければならない。収入面ではマーケティング委員会が中心となるのはもちろんであるが、各委員会でも積極的な財源確保に取り組む必要がある。また各種助成金についても、今まで以上に有効活用を図る必要がある。支出面においても、集中と選択を念頭におき、更に効率の良い運営を推進して行かなければならない。

また、ロンドンオリンピック出場に向けての施策の一つとして、アジア予選の日本開催を見据え、財源確保に取り組んで行く。

【重点施策】

1．縮減財政を踏まえた、予算配分と適正管理
2、マーケティング委員会、各委員会を中心とした各種運営費の財源確保と助成金の有効活用
3、ロンドンオリンピックアジア予選の日本開催誘致と運営に向けた財源確保

8．広報に関する事業

≪広報事業≫

【基本方針】

1、ハンドボール注目度アップ、バリューアップに繋がる情報の発信を図る
2、インターネット情報の充実・拡大を図る
3．マスコミとの交流を拡大する
4、協会事業の周知徹底を図る
5．協会広報システムを構築し、スムーズな運営を図る
6、記録整備のため大会撮影を積極的に行う

【重点施策】

1．ホームページの充実を図る
2、マスメディアへ情報発信等積極的に実施する
　・プレスリリース・記者発表・記者会見・定期懇談会の実施、回数アップ
3．インターネットと機関誌の連携強化を図り、広報活動の効率化を目指す
4、トップリーグ連携機構との連携を図り、共同で活動する
5．過去の記録をデジタル化する
6、組織の充実を図る（人材確保および担当者の複数化･役割分担）
7．企画、マーケティングと連携し、バリューアップ活動を推進する

≪インターネット≫

【基本方針】

1．日本協会より発信すべきハンドボール情報を、インターネットを通じて一般の愛好者へタイムリーに発信する
2．インターネットを活用した情報提供の充実を図るとともに､作業の効率化･スピードアップを図る
3．新たな情報発信・円滑な運用のための体制づくりを確立する
4、ウェブサイトリニューアル
日本リーグウェブサイトとの連携を検討していく

【重点施策】

1．日本協会ホームページの充実
　(1) サーバの移設を実施し、多様なコンテンツ作成に対応する
　(2) ウェブサイトのリニューアルの検討

(3) 代表チームの情報発信の内容充実
(4) 試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実
(5) 試合結果速報用掲示板の運用
(6) 新たな情報発信方法の検討と試行
2．ホームページ等、円滑な運用のための体制づくり
・より良いシステムの検討、人材の補強等

9．機関誌発行に関する事業

【基本方針】
機関誌発行を通じ、都道府県協会・各連盟等日本協会組織全体の情報共有化を図る。更には活動履歴の保管性を提供し、更にハンドボールの指導・普及等の活動関係者に様々な関連情報を提供することで、ハンドボール界の一層の発展に寄与する。

【重点施策】
1．施策方針・理事会・各委員会組織からの情報発信の場として、更に、組織の活性に向け、特に都道府県協会からの情報発信の場として、機関誌の積極的な利用を追求する
2．企画記事として、一定の枠を確保し自らの取材による記事掲載を推進する
3．インターネット情報との密接な連携を図り、相互の情報を高めることで記事の質の向上に取り組む
4．大会報告記事では、単に報告にと留まらず大会にまつわる様々状況など、大会周辺の様子にも着目した掲載を図る
5．機関誌のあり方・掲載内容については適宜見直しを図り、常に機関誌の役割と特徴を意識した運営に努める

10. 企画に関する事業

【基本方針】
1．日本ハンドボール協会の現状分析を行い、中期的視点で課題・問題点を抽出し方向性を示す
2．各本部、各プロジェクトの連携を図り、統合して活動できる環境を整える

【重点施策】
1．最大目標である強化の充実・整備を行う（奨学金制度・強化システム・日本リーグ連携）
2．日韓定期戦の常設を図る
3．ジャパンカップを行う
4．競技者育成技術委員会の充実を図る
5．社会人連盟を設立し、日本ハンドボール協会の基盤の充実を図る
6．事務局業務の整備充実に取り組む

11. マーケティングに関する事業

【基本方針】
ハンドボールのバリューアップ（価値を高める）を図る為の施策に取り組む事により日本協会の収入の大きな柱であるマーケティング収入の確保を図る。マーケティング収入の確保のため、既協賛企業はもとより新規企業の開拓、イベントの拡大、グッズ販売の充実等の推進、また各種権利の整理を行う。

【重点施策】
1．バリューアップ活動の推進
2．オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と拡大に取り組む
3．協賛企業の確保と拡大を行う（既協賛企業、新規協賛企業）
4．スポンサー感謝の集いを企画する
5．イベントを企画する
6．マーケティング収入を目標2,500万円とする
(1) 協賛金（大会事業、オフィシャルスポンサー）
(2) ナショナルユニフォーム広告他
(3) 物品販売、その他
7．オリジナルグッズ、DVD他の企画を行う
8．協賛主催大会のマーケティングを主管部門に指導し協賛金の拡大推進を図る
9．JOC、トップリーグ連携機構とのマーケティングと連携・協力をして、マーケティング力の向上に努める

12. 日本リーグに関する事業

【基本方針】
1．リーグ戦の活性化とレベルアップを図り、東アジア諸国との交流を通じ、国際競技力向上に寄与する
2．地域と共に発展する日本リーグを目指す
3．ハンドボール普及活動へ積極的に参加する
4．日本リーグ中期ビジョンを具体化する
5．メディア対策を更に充実させる

【重点施策】
1．日本リーグ参加チーム拡大のため、クラブチームの指導・育成
2．リーグ加盟条件の見直しを図る
3．チャレンジディビジョンの充実、拡大を図る
4．ホームゲームの充実と地域との連携を強化する
（開催地責任者・GM研修会の実施）
5．試合開催地において積極的にハンドボール教室を開催する
6．トップコーチ、トップレフェリー育成のため、研修会を実施する
7．新たなファンサービスを開発し実行する
8．東アジアクラブ選手権が各チームの目標となる大会となるように、グレードアップを図る
9．スポンサー企業へのサービスを充実する
10．積極的なメディア対策を実施する
（プレスリリース、話題提供、情報交換会の実施）
11．日本トップリーグ連携機構の諸事業に協力し、他競技との連携を深める

13.『がんばれ20万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】
サポート会の拡大、拡充を更に図る為、日本協会と各都道府県協会との連携を密接に取り、サポート会のサービスを拡大する。

【重点施策】
1．日本協会はもとより各都道府県協会において、グランド・ファミリー・グループ会員加入促進を積極的に図る
2．会員への情報・サービスを拡大する

平成22年(2010年)度　国内・国際大会日程

	大会名	開催日程（競技日）	開催地	開催場所
4月	※第7回東アジアクラブ選手権（男・女）	4/7（水）－4/9（金）	韓国・仁川	日本リーグ男女優勝チーム
	※IHF臨時総会	4/23（金）－4/25（日）	イタリア・ローマ	
5月	※日韓代表国際交流定期戦2010	開催見送り予定	韓国	男女ナショナル
6月	※ジャパンカップ2010	6/4（金）－6/6（日）	東京都・渋谷区	東京体育館
	※第4回ビーチハンドボール世界選手権	6/22（火）－6/27（日）	トルコ・アンタルヤ	女子ナショナル
	※第8回女子・第20回男子世界学生選手権	6/27（日）－7/4（日）	ハンガリー・ニーレジハーザ	U-24男女
7月	※第4回男子ユース・アジア選手権	7/3（土）－7/15（木）	UAE・アブダビ	男子ユース
	高松宮記念杯第51回全日本実業団選手権大会	7/7（水）～7/11（日）案	徳島県・徳島市・北島町	徳島市立体育館・北島北公園総合体育館
	西日本学生選手権大会	7/10（土）－7/14（水）	岡山・岡山市	岡山県立総合体育館（桃太郎アリーナ）
	第30回全国クラブ選手権大会・東	7/16（金）－7/18（日）	福島県・本宮市	本宮市総合体育館・本宮一中体育館・ 本宮高等学校体育館（予定）
	※第17回女子ジュニア世界選手権	7/17（土）－8/1（日）	韓国・	女子ジュニア
	※第15回ヒロシマ国際大会	7/22（木）－7/25（日）	日本・広島市	東区スポーツセンター
	※第12回男子ジュニア・アジア選手権	7/23（金）－8/6（金）	イラン・イスファファン	男子ジュニア
	第23回全国小学生大会	7/30（金）－8/1（日）	京都府・京田辺市	京田辺市田辺中央体育館、同志社大学体育館、 京都府立田辺高等学校体育館
8月	高松宮記念杯第61回全日本高校選手権大会	8/1（日）－8/6（金）	沖縄・浦添市、八重瀬町	浦添市民体育館、浦添市多目的屋内運動
	※第3回女子ユース世界選手権	8/2（月）－8/12（木）	ドミニカ・	女子ユース
	NTSブロックトレーニング	8月上旬－9月中旬	各ブロック	各地
	第12回ハンドボール研究集会	8/4（水）－8/5（木）	長野県・佐久市	佐久市立中佐都小学校
	第18回全日本マスターズ大会	8/6（金）－8/8（日）	愛知県・豊田市	スカイホール豊田
	東日本学生選手権大会	8/10（火）－8/12（木）	長野県・千曲市	更埴体育館、戸倉体育館
	第15回ジャパンオープントーナメント（男女）山口国体リハーサル大会	8/13（金）－8/17（火）	山口県・周南市	キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター、 周南市鹿野総合体育館
	※第2回日韓小学生親善交流会（派遣）	未定	韓国	
	第37回全国高等専門学校選手権大会	8/17（火）－8/19（木）	石川県・金沢市	いしかわ総合スポーツセンター
	第39回全国中学校大会	8/17（火）－8/20（金）	広島県・呉市	
	※第1回ユースオリンピック	8/20（金）－8/25（水）	シンガポール	
	※第18回日韓中ジュニア交流大会	8/23（月）－8/29（日）	中国・河南省鄭州市	男女高校生
	第12回全日本ビーチハンドボール選手権大会	8/28（土）－8/29（日）	兵庫県・神戸市	神戸アジュール舞子浜
9月	第35回日本リーグ	9月第1週開幕予定	各地	
	※第14回日韓スポーツ交流（派遣/男・女）	未定	韓国	
	第30回全国クラブ選手権大会・西	9/18（土）－9/20（月）	和歌山県・和歌山市	
	※第14回日韓スポーツ交流（受入/男・女）	未定	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	第65回国民体育大会	9/30（木）－10/4（月）	千葉県・市川市、香取市	市川市国府台市民体育館、市川市塩浜市
11月	高松宮記念杯男子53回女子46回全日本学生選手権	11/19（金）－11/23（火）	大阪府・大阪市	大阪市中央体育館、舞洲アリーナ
	※第16回アジア競技大会	11/12（金）－11/27（土）	中国・広州	University Town（Huashi Gymnasium, Guanggong Gymnasium）
	第8回日本車椅子競技大会	11/20（土）－11/21（日）	和歌山県・和歌山市	和歌山県立体育館
12月	※第2回アジアビーチゲームズ	12/8（水）－12/16（火）	オマーン・マスカット	
	※第13回女子アジア選手権（2011WC予選）	12/19（日）－12/24（金）	未定	女子ナショナル
	第62回全日本総合選手権大会（男・女？）	12/22（水）－12/26（日）予定	東京都・世田谷区	駒沢体育館
	第19回JOCジュニアオリンピックカップ	12/25（土）－12/28（火）	愛知県・名古屋市	愛知県体育館、枇杷島スポーツセンター、 東スポーツセンター
1月	NTSセンタートレーニング（高校生）	1/4（火）－1/6（木）	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	NTSセンタートレーニング（中学生）	1/8（土）－1/10（月）	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	※第22回男子世界選手権	1/13（木）－1/30（日）	スウェーデン・Malmö他	男子ナショナル
2月	全日本実業団チャレンジ2011	未定	未定	
3月	第35回日本リーグプレーオフ	3/12（土）－13（日）	東京都・世田谷区	駒沢体育館
	第34回全国高校選抜大会	3/25（金）－3/30（水）	岩手県・花巻市	花巻市総合体育館、花巻市民体育館、 富士大学スポーツセンター
	第6回春の全国中学生選手権大会	3/26（土）－3/29（火）	富山県・氷見市	氷見市ふれあいスポーツセンター、 県立氷見高校体育館、県立有磯高校体育館

2010.3.11現在　※は国際大会

平成21年度　チーム数・選手数一覧表

2010/3/2 現在

No	種別	一般L		一般A		大学		高専		高校		中学生		小学生·少年団		リージョナル		合計	
No	都道府県	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北海道	0	0	14	213	36	577	2	50	57	1.129	17	458	8	134	11	171	145	2,732
2	青森県	0	0	10	153	6	82	1	28	19	413	2	47	0	0	0	0	38	723
3	岩手県	0	0	9	136	5	98	1	20	39	819	32	790	3	76	21	295	110	2,234
4	宮城県	0	0	5	86	11	193	1	13	42	943	19	435	4	58	1	16	83	1.744
5	秋田県	0	0	6	79	2	26	1	18	12	263	6	139	0	0	0	0	27	525
6	山形県	0	0	6	99	1	19	1	20	18	449	4	62	2	40	0	0	32	689
7	福島県	0	0	8	101	3	45	0	0	44	770	29	702	4	116	3	32	91	1,766
8	茨城県	0	0	9	137	4	75	0	0	54	916	36	746	9	196	10	162	122	2,232
9	栃木県	0	0	2	33	3	48	0	0	19	377	13	310	3	116	0	0	40	884
10	群馬県	0	0	8	130	2	43	0	0	17	363	17	334	2	85	4	49	50	1,004
11	埼玉県	1	19	13	235	8	129	0	0	82	1,983	51	1.229	5	104	0	0	160	3,699
12	千葉県	0	0	7	127	8	178	0	0	61	1,172	31	538	6	123	4	64	117	2,202
13	東京都	0	0	21	395	47	1,001	4	91	140	1,896	62	778	6	148	54	874	334	5,183
14	神奈川県	0	0	13	203	15	322	0	0	144	2,646	94	1,906	10	131	12	149	288	5,357
15	山梨県	0	0	5	71	5	72	0	0	27	527	14	281	3	94	8	112	62	1,157
16	長野県	0	0	5	82	4	62	0	0	31	462	9	226	2	42	0	0	51	874
17	新潟県	0	0	3	47	5	65	1	14	12	238	5	30	1	21	5	57	32	472
18	富山県	0	0	7	103	4	52	1	37	24	411	33	609	18	251	7	100	94	1.563
19	石川県	1	16	10	134	4	67	2	38	23	480	22	601	1	58	5	63	68	1.457
20	福井県	1	17	4	59	2	21	1	25	16	326	13	334	7	102	3	40	47	924
21	静岡県	0	0	12	183	3	39	1	19	43	1,122	5	207	5	88	0	0	69	1,658
22	愛知県	4	81	13	223	29	495	1	30	237	5,709	200	4,553	15	75	0	0	499	11,166
23	三重県	1	14	7	109	3	44	2	33	43	786	29	660	8	102	0	0	93	1,748
24	岐阜県	0	0	10	148	5	92	1	27	47	1,058	54	1,213	7	257	0	0	124	2,795
25	滋賀県	0	0	8	115	4	70	0	0	22	505	13	307	0	0	3	29	50	1,026
26	京都府	0	0	6	78	17	278	1	22	38	747	27	489	26	607	11	88	126	2,309
27	大阪府	0	0	8	132	27	475	1	23	108	2,007	23	408	10	263	0	0	177	3,308
28	兵庫県	0	0	8	138	12	231	1	19	87	1.759	28	699	8	177	8	133	152	3,156
29	奈良県	0	0	5	85	7	125	1	24	24	492	14	266	5	72	0	0	56	1,064
30	和歌山県	0	0	6	87	2	31	1	22	18	336	14	195	2	70	6	78	82	785
31	鳥取県	0	0	3	44	1	15	1	20	15	277	6	106	2	37	0	0	28	499
32	島根県	0	0	2	28	1	15	1	34	11	198	4	52	0	0	0	0	19	327
33	岡山県	0	0	13	183	7	152	1	32	53	1,165	16	345	16	239	4	49	110	2,165
34	広島県	2	36	6	116	7	104	1	13	19	368	9	169	5	124	4	55	53	985
35	山口県	0	0	9	148	1	14	2	50	30	685	21	453	5	262	3	46	71	1,658
36	香川県	0	0	4	69	3	65	1	26	22	432	20	371	5	132	0	0	55	1,095
37	徳島県	0	0	2	24	6	60	1	19	12	240	6	100	0	0	0	0	27	443
38	愛媛県	0	0	8	135	6	88	0	0	30	696	7	128	5	104	0	0	56	1,151
39	高知県	0	0	4	77	1	13	1	25	13	185	9	167	0	0	4	45	32	512
40	福岡県	0	0	5	85	12	247	4	77	48	1,009	23	496	7	81	0	0	99	1.995
41	佐賀県	1	19	3	35	1	16	0	0	14	234	7	92	2	42	0	0	28	438
42	長崎県	0	0	7	104	2	27	1	38	29	641	14	265	4	61	0	0	57	1,136
43	熊本県	1	21	6	98	4	80	2	40	52	1,136	36	761	21	440	0	0	122	2,576
44	大分県	0	0	8	99	4	57	1	7	11	192	13	264	12	174	1	13	50	806
45	宮崎県	0	0	2	32	2	29	1	14	36	657	19	256	8	128	9	82	77	1,198
46	鹿児島県	1	18	3	62	3	42	1	28	30	604	17	394	2	41	3	23	60	1,212
47	沖縄県	1	15	8	130	6	128	1	20	65	1,333	53	1,445	30	673	25	354	189	4,098
合計		14	256	341	5,390	351	6,207	46	1,016	2,038	41,156	1,196	25,416	337	6,110	229	3,179	4.552	88.730

Free Throw

フリースロー

～「栄枯盛衰」に見る～

企画･広報委員
早川　文司

34回を数える日本リーグが終わった。1、2部制で行われていた当時を振り返ると、男子8チーム、女子6チームという現状は、あまりにも寂しい感じがぬぐえない。とはいえ、現在の経済情勢を考えれば、仕方ないと言わざるを得ない面があるのも確かであろう。

「栄枯盛衰」という言葉があるが、日本リーグ男女の結果を振り返ると、そうした"歴史"が見えてくる。

男女を通してリーグ誕生から現在までトップの座を維持しているのは、男子が湧永製薬、女子がオムロンというわずか2チームに過ぎない。連続出場していたホンダも、33回リーグを最後に姿を消した。

1部に登場したのは男子が19チーム、女子は15チームだが、この数字をみれば、いかに"連続"が難しいかが分かる。その時、その時の経済状況がはっきり読み取れるとも言えよう。

男子は創成期は大同特殊鋼と湧永製薬が激しく争った"2強時代"だった。その後、ホンダ、大崎電気、日新製鋼などが入り乱れてしのぎを削り、一時期は中村荷役も参戦した。

そしてホンダが全盛期を迎え、6回連続優勝とう快挙を成し遂げている。10年ほど前あたりから大同特殊鋼が再び台頭、最近は他を圧倒する強さを発揮、完全復活を成し遂げている。

そうした中で目を引くのが湧永製薬の安定した戦いぶりだ。近年は頂点にこそ立てないもどかしさはあるが、33回までに4位はわずか2度。そのほかはすべて3位以内という好成績を残している。

一方、女子に目を転じると、こちらも"無欠勤"はオムロンだが、現在はHC名古屋としてクラブ化したが、前身のブラザー工業も2部を含めると連続出場を誇っている。

第1回からオムロン（当時は立石電機）と日本ビクターが争い、ジャスコ、大崎電気が参戦、一時は大崎電気が全盛期をおう歌した。

その後、94年に創部した広島メイプルレッズが1年で1部昇格を果たすと第23回から7年連続女王の座を占め話題を独占。低迷期に入るとオムロンに主役を譲り渡した。

オムロンもまた、湧永製薬と同様にほとんど3位以内をキープしており、リーグの長い歴史に彩りを添えている。

最近では男子ではトヨタ車体、トヨタ紡織九州の台頭が目を引くし、女子は北国銀行が復活、ソニーセミコンダクタ九州が急速に力をつけてきている。来季も混戦リーグを楽しみたい――。

2010年4月1日より、競技規則を一部改訂します

IHF（国際ハンドボール連盟）では、2010年7月1日に競技規則の改訂を予定しています。まだ最終的な新しい競技規則は送られてきていませんが、先日、IHFのホームページにその内容が掲載されました。（3月5日現在）

そこで、日本ハンドボール協会では、改訂内容のうちの一部についてのみ、2010年4月1日より暫定的に改訂し実施します。以下にその内容を記載します。

枠内の文章は、変更される予定の条文です。

①第8条と第16条：違反行為、スポーツマンシップに反する行為、および罰則

（1）「追放」がなくなります。「暴力行為」は「失格」＋「報告書」。そしてさらなる「懲罰の付加」となります。

（2）ゴールキーパーが速攻時に相手選手と衝突するという、危険で議論を要する場面について、あらためてGKに回避義務があると明記されます。

（参考）
8の5　失格とするべき違反
【注】
ゴールキーパーが、ゴールエリアを離れ、コートプレーヤーとして相手チームのプレーヤーに対してパスされたボールを取ろうとするとき、特別な責任を負うのはゴールキーパーとし、相手に対する危険な状況を回避しなければならないものとする。

同様に、7mスローが、シュートの軌道に反応出来ていないGKの頭部を直撃した場合についても以下のようになります。

フリースローが、シュートの軌道の方へと移動していない防御側プレーヤーの頭部を直撃した場合も同様です。

この競技規則に違反した場合は、「失格」になります。報告書は不要です。

（参考）
8の9　失格とするべき著しくスポーツマンシップに反する行為
d）7mスローが、シュートの軌道に反応出来ていないGKの頭部を直撃した場合
e）フリースローが、シュートの軌道の方へと移動していない防御側プレーヤーの頭部を直撃した場合
【注】7mスローやフリースローの実施に際して、シュートを打つプレーヤーはゴールキーパーや防御側プレーヤーに危害を及ぼすような行為をしてはならない。

（3）「ブロックは原則として受身でなければならない」と明記されます。

（参考）
8の1　次の行為は許される。
c）位置を争うときに、胴体で相手の動きを阻止すること。
【注】ブロックとは、相手が空いた空間に移動するのを妨げるということを意味する。ブロックすること、ブロックを維持すること、ブロックを外すことは、原則としてお互いに受け身でなければならない。


【写真1】足幅が広い


【写真2】腰で押している


【写真3】ひじでブロックしている


【写真4】腕でDFを捕まえている


【写真5】足を使ったブロック


【写真6】正しいブロック

これ以外の項目については、新しい競技規則の発行にあわせ改訂する予定です。また、ここにあげた項目についても、今後解釈の変更等が生じることがあります。

医事関係会議報告

医事専門委員会委員長 佐久間 克彦、熊本保健科学大学 陣上 修一

1）平成21年度アスレチックトレーナー連絡会議
（平成22年1月10日、岸記念体育館、出席者；陣上修一）
2）平成21年第3回競技団体連絡会議兼競技者支援要員向けドーピング防止研修会
（平成22年1月15日、味の素ナショナルトレーニングセンター、出席者；佐久間克彦／原田悟）
3）平成21年度スポーツドクター代表者協議会（平成22年3月6日、岸記念体育館、出席者；佐久間克彦）

上記1）～3）の医事関係会議に出席して今年度の医事関係の課題が浮き彫りにされた。

1）3）の会議においては同じ内容のテーマ
『都道府県体育協会および中央競技団体とアスレチックトレーナー組織との協力体制について』
「都道府県レベルにおける各競技の医・科学サポート体制について」
である。

まず日本ハンドボール協会においては、トレーナー部会が正式に存在してない。しかしながら有志による“トレーナーの集い”が3年前から活動を始めている。

一方医事関係の委員会は、各都道府県レベルにおいて少なからず存在しているようだが日本協会との連携は全くない状態である。

すなわち、このテーマの基本となるのは、スポーツ振興基本計画（2001～2010年）の1項目であるスポーツ医・科学の活用が十分達成されて無いためであると推測される。現状、僅かにサッカー協会、ラグビー協会がその体をなし得ているが当協会では不十分な状態である。そのため、平成22年度以降の医事委員会の連携強化が重要課題の一つと考えられる。

具体的にはトレーナー部門においては、1）日本協会及び各都道府県協会でのトレーナー組織の構築　2）医事委員会との連携強化　3）トレーナー相互連携　4）帯同・育成システム再考　5）医科学研究促進　6）選手・スタッフへの啓蒙活動が考えられる。医事部門においてもトレーナー部門と同様であると考える。

次に2）3）の会議においては、毎年変更が行われている2010年のドーピングに関する主要な変更点についての研修が行われた。日本の選手に一番関係する項目は、1）喘息治療薬；すべてのベーター2作用薬は禁止。但し、サルブタノール、サルメテロールの吸入は検査時およびADAMSの申告でよい。その他のベーター2吸入薬は　TUEを申請する。2）酸素運搬能の強化；禁止方法から「酸素自体の補給は除く」が明記された。酸素カプセル、酸素テント、酸素吸入は禁止されない。3）静脈内注入；2010年から静脈内注入は禁止される。但し、医療機関での受診過程（救急搬送中の処置、外来及び入院中の処置を全て含む）、または臨床検査において正当に受ける静脈注射は除く。注入される物質が禁止されておらず、かつその量が50mlを超えない場合には、単純な注射筒による注射は禁止されない。

日本におけるドーピング違反は「ついうっかり服薬」というのが選手にとって一番辛いところであるのでしっかりと自己管理される事が何より一番肝要である事は論を待たない。そして それを防止するために、昨年からドーピング防止に精通した薬の専門家としてスポーツファーマシスト制度が始まった。日本協会としてもその人材育成促進が始まったところです。

最後に3）の協議会において「スポーツ現場における医療行為等に関する法的問題について」菅原哲朗弁護士による情報提供が行われた。ドクターのみでなく指導者を含め各種大会開催の責任者においては大変興味をそそる内容であった。スポーツ事故の現場において、いかに「安全配慮義務」が尽くされているかが焦点である。詳細な内容については菅原哲朗弁護士が多くの本を出版されていますので勉強されて下さい。

受章報告

佐野和夫様が瑞宝小綬章を受章



昨年、秋の叙勲にて（財）日本ハンドボール協会参与の佐野和夫様が瑞宝小綬章を受章されました。

佐野和夫氏は、昭和4年生まれ、昭和24年3月東京文理大学卒業、昭和30年3月東京教育大学卒業（3年編入で2年間在籍）され、長く教員として奉職されました。

昭和36年東京都立神代高等学校にてインターハイ出場、その後IHF公認審判員など、ハンドボールの普及に大きな貢献をされ、平成7年4月には（財）日本ハンドボール協会監事に就任。平成13年3月監事退任の後も、積極的な活動を継続されております。

平成 21 年 3 月 14 日・15 日の両日、駒澤大学において、第 7 回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。
研究会の発表内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。
今月は丸井一誠さん（福岡大学）の発表内容「ハンドボール競技におけるゲーム感に関する一考察」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人松韻学園福島高等学校）

ハンドボール競技におけるゲーム感に関する一考察

―残り時間と点差の関連性に着目して―

丸井一誠・明石光史・濱口朋幸・田中　守（福岡大学）

キーワード：ハンドボール、残り時間、点差

1．はじめに

ハンドボール競技のようなチームゲームにおいて、プレイヤーに求められる能力のひとつに試合の全体状況を的確につかみ、ゲームの流れを肌で感じ、優位に進めていく "ゲーム感" があげられる。とりわけ、ゲームメーカーは攻守の組み立てを行うとともに、残り時間と点差に配慮してゲームを進め、勝利に導かなければならない役割であることから、"ゲーム感" は必要不可欠な能力といえよう。

しかしながら、プレイヤーの "ゲーム感" については明らかになっていない。

そこで本研究では、プレイヤーの "ゲーム感" を時間と点差を照らし合わせて、明らかにすることを目的とする。

2．方法

2－1．対象

F 大学の女子ハンドボール部員 18 名を対象とした。各プレイヤーのオフェンスポジション、学年、ハンドボール競技経験歴は表 1 の通りであった。競技歴の平均は 7.83 ± 2.57 年であった。

表 1　各プレイヤーの属性

	ポジション	学年	競技歴
1	Side	1	5
2	Side	1	7
3	Side	2	8
4	Side	2	8
5	Side	3	12
6	Backcourt	1	3
7	Backcourt	1	4
8	Backcourt	2	8
9	Backcourt	2	13
10	Backcourt	3	6
11	Backcourt	3	9
12	Backcourt	3	11
13	Post	1	7
14	Post	1	9
15	Post	3	6
16	Post	3	9
17	Goalkeeper	1	8
18	Goalkeeper	2	8

2－2．調査時期

調査期間は、大学生が最終目標に挙げるインターカレッジを終えて、新チームでの活動が始まる準備期にあたる平成 19 年 2 月 18 日（日）とした。

2－3．調査内容

ほぼ同じ競技力のチームとの対戦を想定させ、とりわけ、勝利するために大事だと思われる後半残り時間 10 分、8 分、5 分、3 分、2 分、1 分、0.5 分の時間を設定し、ボール保持している状態で勝利を確信できる最小の点差を各プレイヤーに記述させた。

2－4．分析方法

アンケートによる集合調査法を用い、時間ごとの点差の平均を求めた。全体における残り時間と点差の関連性をグラフで示し、競技歴で分類して比較を行った。

3．結果および考察

3－1．全体における "ゲーム感"

勝利を確信できる点差は 10 分で 9.64 ± 2.27 点差、8 分で 7.81 ± 2.29 点差、5 分で 6.41 ± 1.79 点差、3 分で 5.41 ± 1.76 点差、2 分で 4.21 ± 1.49 点差、1 分で 3.29 ± 1.03 点差、0.5 分で 2.28 ± 0.67 点差となった（図 1）。

残り時間 5 分から 2 分の間、とりわけ残り時間 3 分では、

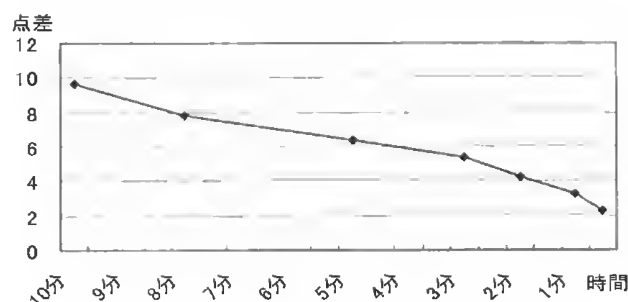


図 1　全体における勝利を確信できる点差と時間の関係

点差の見積もりかたに変化があった。

このことからゲームの組み立てにおいて大事な時間帯であると考えられ、プレイヤーは際立ってゲームの流れを読み取ろうとしていることが示唆される。

3－2．競技歴で比較した“ゲーム感”

残り時間に対して、勝利を確信できる点差が多ければゲーム感が優れているわけでもなく、低くても乏しいわけでもないといえる。

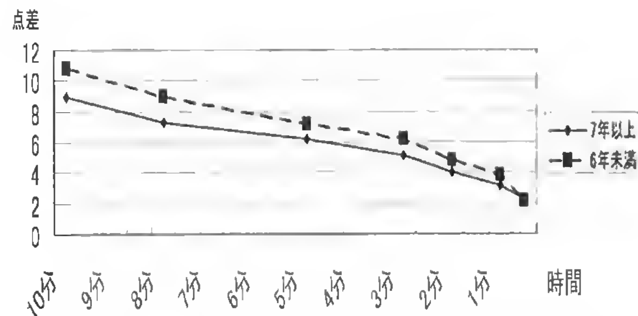


図２　競技歴７年以上と６年未満による点差と時間の関係の比較

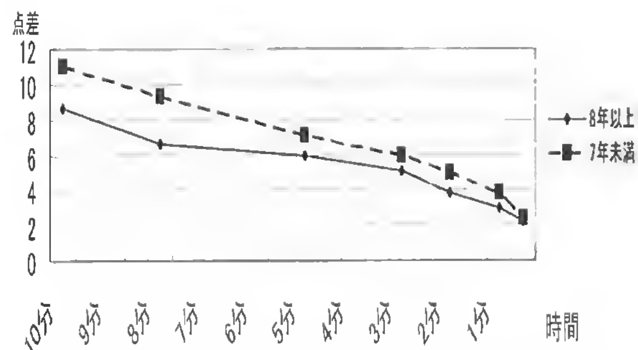


図３　競技歴８年以上と７年未満による点差と時間の関係の比較

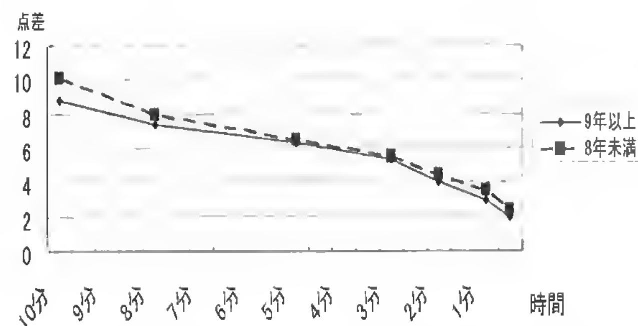


図４　競技歴９年以上と８年未満による点差と時間の関係の比較



経験年数が多いプレイヤーと低いプレイヤーと比べると、勝利を確信できる点差は、経験年数が多いプレイヤーのほうが、勝利を確信できる点差は低い傾向が見られた（図２・３・４）。競技歴が短いプレイヤーは、競技歴が長いプレイヤーよりも勝利を確信できる点差をより多く見積もる傾向があり、ゲーム運びに余裕を持ってプレーしていないことが示唆される。競技歴の長いプレイヤーは点差が低くても勝ちきれるというような身体知をもってプレーしていると考えられる。

4．まとめと今後の課題

本研究では、プレイヤーの“ゲーム感”を明らかにすることを目的とし、残り時間から勝利を確信できる点差との関連性を明らかにした。

結果から全体におけるプレイヤーの残り時間と点差の関連性を示し、競技歴による比較において競技歴の長いプレイヤーと短いプレイヤーの間に差があることを明らかにすることができた。

しかし本研究は母数が少なく、さらに詳細な分析にまで至っておらず、有意に差があると結論付けるまでには至らない。また、残り時間に対して勝利を確信できる点差は、各チームの構想や戦術によって異なることから、本研究の結果はあくまでも基礎的な資料として扱うべきであると考える。

今後の課題として、各チームの構想や戦術を踏まえながらも、チーム数やプレイヤー数を増やし、詳細な分析を試みることである。またプレイヤーと指導者との比較を行い、両者間のゲーム感の相違についても明らかにする必要があるであろう。

主要参考・引用文献

１）金子　明友（2005）、身体知の形成　上、明和出版。

２）金子　明友（2005）、身体知の形成　下、明和出版。

協会だより

平成21年度　第2回評議員会

日　時：平成22年2月13日（土）
13:30～16:30
場　所：味の素ナショナルトレーニングセンター研修室3，4
出席者（敬称略、名簿順）：
評議員：田辺哲彦、今野正志、菅野　肇、後藤義信、山下勝司、齋藤光男、上久保重次、風間勝也、大東秀明、川邊孝夫、平塚一彦、竹内佳明、山川博行、中浦　悟、庄司勝二、夏目眞治、名倉昭弘、秋永昭治、中村博幸、千葉英之、田中秀和、森江和吉、森安昭雄、高野　修、加藤　晃、長尾輝夫、田中達男、川村浩之、末次　功、大宮　泉、冨松秋實、西花丈雄、原田孝幸、齊藤節郎、阿部富夫、川原繁樹、市田隆　　以上37名
委任状提出評議員：
松喜美夫、奥山重雄、安田博之、浜野大助、石川直樹、村木啓作、吉田博二、中井公人、小澤敏正、松本育男、武田末男、石井通義、税所健好、新垣　健、三辻陽夫　以上15名
理事：多田　博、川上憲太、高村誠一、伊藤宏幸、角　紘昭、大橋則一、植村　彰
以上8名
監事：塩川安賢、荘林康次、高田日呂美
以上3名
特任副会長：山下　泉、川上整司　以上2名
オブザーバー：岡市　武、宮元章次　以上2名
（事務局）兼子、床尾

以上、出席評議員37名、委任状出席15名、出席理事8名、出席監事3名、出席特任副会長2名、オブザーバー2名、事務局2名

<評議員会成立の確認>

本評議員会が評議員定数53名、出席37名、書面委任15名であり、財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第29条に定められた、3分2以上の出席のため、本評議員会が成立していることが報告された。

次に議長の選出が行われ、寄附行為第28条、第3項に基づき、渡邊会長が議長となるが、本日所用で遅れるので、その間の代行を多田副会長が行う。

■多田副会長より挨拶

レバノンにて男子代表チームがアジア選手権で戦っている。現在のところよく頑張っている。予選はトップ通過した。上位3チーム入れば2011の世界選手権出場となる。

日本協会は男女日本代表チームのオリンピック出場を目指し、力をつけるために強化にすべてのベクトルを合わせ頑張ってもらっている。また、市原副会長はJOC専務理事でありながら、ハンドボールがオリンピック出場できていないこと不憫に思う。5月に日韓戦で女子が久々に韓国に勝ったが、2012年にはオリンピックにぜひ出場してもらいたい。4月からの新年度は大事であり、チームの強化に全面的に協力して戴きたい。本日は、全国の皆さんのご意見を伺いながら進めていきたい。なお、秋の叙勲で参与の佐野和夫様が瑞宝小綬章を、福島県協会会長の宗形様が旭日双光章を受章された。佐野様について、川上副会長よりご紹介いただきたい。

川上副会長より、先生の人となりが照会された。

<議事録署名人の選出>

続いて、多田議長代行より議事録署名人の指名が行われ、議長、菅野　肇評議員、夏目眞治評議員、川上憲太専務理事が指名され、満場一致で承認された。

審議事項

1、平成21年度第二次補正予算案について

議長より第二次補正予算であるが、報告事項の1番目に今年度の事業報告があり、補正予算案と関連するため、先に平成21年度の事業報告を行う旨の説明があった。

これを受け、川上専務理事、関係常務理事より報告された。

これに引き続き、伊藤財務担当常務理事より、平成21年度第二次補正案について説明がなされた。補正後は、事業活動収入合計486,003,800円、事業活動支出合計480,743,200円、事業活動収支差額5,260,600円、積立金支出25,000,000円、予備費支出2,500,000円となり、次期繰越収支差額は81,959,837円となることが説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2、平成22年度事業計画案について

川上専務理事より、平成22年度の事業計画について概略が説明された。

田辺評議員より、"寄与"の表現について指摘があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3、平成22年度事業予算案について

伊藤財務担当常務理事より、平成22年度事業予算案について説明がなされた。平成22年度は、事業活動収入合計490,203,000円、事業活動支出合計489,317,670円、事業活動収支差額885,330円、積立金支出25,000,000円、予備費支出2,500,000円となり、次期繰越収支差額は66,345,167円で予算立てしたことが説明された。

兼子事務局長より、各種助成金の申請状況について補足説明がなされた。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1、平成21年度事業報告について

すでに審議事項1において各事業の報告を行ったためここでは省略。

2、平成22年度登録について

伊藤常務理事より報告がなされた。登録内容については2009年からの変更はない。なお、登録の締め切り期限を守れない都道府県があるので厳守することがお願いされた。

3、平成22年度国内・国際大会日程について

兼子事務局長より報告がなされた。女子ユースと女子ジュニアの世界選手権について、本日IHFより変更の連絡があったため新しい日程を確認して頂きたい。女子アジア選手権と全日本総合の日程が重なるため、現在江成競技委員長が調整中。

4、平成22年度会議日程について

伊藤常務理事より報告がなされた。また、兼子事務局長より補足説明があり、2011年2月の評議員会・理事会の日程は、平成22年度で役員任期満了となる。文部科学省より前回の役員決定方法で、会長、専務理事に一任するのは、寄付行為と異なり問題があると指摘され、検討する時間を多く取れるように、例年より一週間後ろにずらした。

5、強化本部報告について

川上専務理事と兼子事務局長より報告がなされた。

6、ナショナルトレーニングシステムについて

角常務理事より、報告がなされた。10年目を経過したNTSについて、若干の組織変更をすることが報告された。

7、社会人連盟について

川上専務理事より報告がなされた。理事会で承認を得て、4月から全日本社会人ハンドボール連盟をスタートさせたい。来年度は、大会等は現状の状況のまま行うことになる。

原田実業団連盟理事長より、先の理事会で承認後に実業団に話があったと記憶している。

実業団連盟の名称変更もあり得る。

8、法人制度について

伊藤常務理事より報告がなされた。分かりやすいQ&Aをご一読頂きたい。

9、IHF臨時総会について

川上専務理事より報告がなされた。4月にイタリアでIHF臨時総会が開催される。出席者は、IHF役員として渡邊会長、日本協会からは、市原副会長と多田副会長を予定している。動議は2月22日までに提出する。

10、プレーオフ、ジャパンカップ2010につ

いて

高村常務理事より報告がなされた。今回は両大会とも東京体育館である。集客に努めたいので評議員のみなさまのご協力願いたい。ジャパンカップは賞金を用意することでスリリングな試合となることを期待したい。

11、がんばれ20万人会について

伊藤常務理事より報告がなされた。20万人会に名称変更するための手続きをしているが、規約にあるフレンド会員については事務処理等の問題からなくす。

12、平成21年度第2回理事会（11/14開催）議事録

特に説明をしませんので、目を通しておいて下さい。

13、その他

1）斉藤評議員（群馬県）より、中国で開催された女子世界選手権を観戦してきたが、順位決定戦日本の分析担当者は見当たらなかった。素晴らしいプレーなので、強化に費用を特化することも大事だが各都道府県の代表者なりを呼んで情報提供をするべきと思う。

平成21年度　第3回理事会

日　時：平成22年2月20日（土）
　　　　13:30～16:30
場　所：味の素ナショナルトレーニングセンターアスリートビレッジ小研修室1・2
出席者（敬称略、名簿順）：
理事：渡邊佳英、多田　博、川上憲太、高村誠一、伊藤宏幸、角　紘昭、江成元伸、大橋則一、志々場修二、田中　茂、工藤雄三、松井幸嗣、河先　修、稲生　茂、城川俊久、山本　一　　以上16名
監事：塩川安賢、荘林康次、高田日呂美　　以上3名
特任副会長：川上整司　　以上1名
参事：古屋正俊、小西博喜、小島収治、高山重雄、杉本眞一、前川和三、佐藤公美、佐藤喜一、中野利一、近久紀人、笹倉清則、佐藤　靖、大原康昇、小山哲央、大村　久、佐久間克彦、福地賢介、田中　守、藤森　徹、兼子　真　　以上20名
欠席者（敬称略、名簿順）：
理事：市原則之、西窪勝広、蒲生晴明、植村　彰（委任状提出有り）
（事務局）兼子、羽田、床尾、原田
以上、出席理事16名、委任状出席4名、出席監事3名、出席特任副会長1名、出席参事20名、事務局3名

<理事会成立の確認>

本理事会が理事定数20名、出席16名、書面委任4名であり、財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第26条に定められた3分2以上の出席のため、本理事会が成立していることが報告された。

次に議長の選出が行われ、寄附行為第25条、第3項に基づき、渡邊会長が議長となった。

■渡邊会長より挨拶

先週の評議員会は都合により欠席して失礼しました。先日、ベイルートで開催されているアジア選手権大会に行き、日本対サウジアラビア戦を観戦した。中東の笛を懸念していたが、IHFより審判委員と1ペアの審判員が派遣されており、運営はフェアであった。しかし、今回はクウェートが欠場した中での大会であり、出場した場合どうなるかを注意していく必要があろう。観戦した試合は、日本に極めて有利だったが、結果は敗れてしまい誠に残念であった。本日、三位決定戦があり、再度サウジアラビアと対戦し、33－30で勝利、世界選手権大会の出場権を獲得した。しかし、アジアで1位にならなければオリンピック出場はない。帰国後、アジア№1になる方法を考えていきたい。また、中高生の大会の充実が日本代表の強化につながるので、宜しくお願いしたい。

また、3月にはJOCが公益法人の手続きに入るそうだ。日本協会も公益財団法人への移行手続き準備に入っていく。

いずれにしても、アジアチャンピオンへの道のりは険しいが、皆さんの力を合わせて進んで行きたいので宜しくお願いします。

<議事録署名人の選出>

続いて、渡邊議長より議事録署名人の指名が行われ、議長、川上憲太専務理事、伊藤宏幸常務理事、河先　修理事が指名され、満場一致で承認された。

審議事項

1、平成21年度第二次補正予算案について

伊藤財務担当常務理事より、平成21年度第二次補正案について説明があった。補正後は、事業活動収入合計486,003,800円、事業活動支出合計480,743,200円、事業活動収支差額5,260,600円、積立金支出25,000,000円、予備費支出2,500,000円となり、次期繰越収支差額は81,959,837円となる旨説明があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2、平成22年度事業計画案について

川上専務理事より、平成22年度の事業計画について概略説明があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3、平成22年度事業予算案について

伊藤財務担当常務理事より、平成22年度事業予算案について説明があった。平成22年度は、事業活動収入合計490,203,000円、事業活動支出合計489,317,670円、事業活動収支差額885,330円、積立金支出25,000,000円、予備費支出2,500,000円となり、次期繰越収支差額は66,345,167円で予算立てした旨説明があった。

兼子事務局長より、各種助成金の申請状況について補足説明があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4、平成22年度JOC専任コーチ等推薦について

川上専務理事より推薦する専任コーチングディレクターについて説明があった。

専任コーチングディレクターとして、田中茂NTC担当、酒巻清治トップアスリート（男子）担当、黄慶泳トップアスリート（女子）担当、市來未央ジュニアアスリート（女子）担当、ネメシュ・ローランドジュニアアスリート（男子）担当、専任メディカルスタッフとして、赤尾和彦トレーナーを推薦することとした。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5、全日本社会人連盟設立について

江成常務理事より、社会人連盟への移行について説明があった。

川上専務理事より、5～6年前より検討を進めてきた。現在の日本協会の基盤である社会人チームの顕在化、活性化がはかりにくい状況であり、また、実業団連盟大会にクラブチームが参加しているという矛盾も抱えている。大学の中でも同好会など、各都道府県でそれぞれ大会を実施している。クラブを拡大化し、社会人のハンドボール人口の把握により、登録金のしくみの改善を含めて、顕在化と活性化を図りたい。2～3年かけてサッカー天皇杯のように、下から勝ち上がりの日本選手権大会開催など、組織活性化プロジェクトで徐々に進めていきたい旨説明があった。

また、江成常務理事より、社会人連盟設立にあたっては寄付行為の変更が必要になるため、6月の評議員会、理事会へ提案していく旨説明があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6、ビーチハンドボール世界選手権について

川上専務理事より、6月開催の世界ビーチハンドボール選手権に日本の女子チームが、昨年のワールドゲームズの実績より、IHFより参加の指名を受けたことが報告され、チームを派遣するか否かを審議して欲しい旨説明があった。

山本理事より、選手選考を早めに進めるように意見があった。渡邊会長より、出場するからには好成績を収めるように頑張って欲しいとの意見があった。川上副会長より、昨年の中華台北（高雄）でのワールドビーチゲームズで、世界の技術は非常に高く、7人制よりも日本とのレベル差は大きい、初めて見た人は7人制よりも面白いという感想を持ち、